

# 補足資料集

■ ■ 児童生徒数	.....	P 1 ~ 8
○ 令和4年度の出生数に基づく住民基本台帳数値	.....	P 1
○ 児童生徒数の推移	.....	P 2
○ 学校・学年別の児童・生徒数（予測値）	.....	P 3 ~ 8
■ ■ 各地区協議における使用資料	.....	P 9 ~ 20
○ 学校規模が児童生徒に与えるメリット・デメリット	.....	P 9 ~ 11
○ 行財政運営を踏まえた 「安全安心で豊かな教育環境の提供」について	.....	P 12 ~ 13
○ 千葉県内自治体の学校再編に関する方針について	.....	P 14
○ 複式学級の概要	.....	P 15 ~ 16
○ 市内中学校の現状	.....	P 17 ~ 18
○ 学校再編後の児童のコメント（近隣自治体HPから）	.....	P 19 ~ 20
■ ■ 各地区との協議結果（保護者意見）	.....	P 21 ~ 59
○ 地区別一覧	.....	P 21
（過小・小規模校地区）		
□ 船形地区	.....	P 22 ~ 24
□ 那古地区	.....	P 25 ~ 27
□ 西岬地区	.....	P 32 ~ 33
□ 房南地区	.....	P 34 ~ 37
□ 豊房地区	.....	P 38 ~ 39
□ 神余地区	.....	P 40 ~ 53
□ 館野地区	.....	P 54 ~ 56
□ 九重地区	.....	P 57 ~ 59
（標準規模校地区）		
□ 北条地区	.....	P 28 ~ 29
□ 館山地区	.....	P 30 ~ 31
■ ■ 小規模特認校に関する事項	.....	P 60 ~ 65
○ 制度概要・導入事例（学校選択制／小規模特認校）	.....	P 60 ~ 63
○ 先進事例／視察結果	.....	P 64 ~ 65



# 小学校・中学校 児童生徒数（推計値）

## 1 令和4年度の出生数に基づく住民基本台帳数値

### ① 小学校 児童数（予測値：学年別／男女別）

※ 児童数=令和5年5月1日時点 ※ 未就学児=令和5年4月1日時点

年 齢	0才		1才		2才		3才		4才		5才		6才		7才		8才		9才		10才		11才	
出生年度	R 4		R 3		R 2		R 元		H 30		H 29		H 28		H 27		H 26		H 25		H 24		H 23	
入 学 年 (男・女)	R 11		R 10		R 9		R 8		R 7		R 6		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
船形小	4	6	4	1	8	6	5	5	6	1	4	5	8	2	4	11	10	10	5	7	14	7	11	11
	10		5		14		10		7		9		10		15		20		12		21		22	
那古小	14	13	17	14	10	11	22	7	14	17	18	16	14	9	9	20	22	14	22	24	18	26	13	13
	27		31		21		29		31		34		23		29		36		46		44		26	
北条小	33	27	38	38	21	37	45	28	46	31	41	31	46	44	42	44	45	55	60	46	64	59	54	63
	60		76		58		73		77		72		90		86		100		106		123		117	
館山小	20	29	27	24	28	25	36	16	22	28	32	28	33	18	30	30	36	23	32	24	33	27	28	34
	49		51		53		52		50		60		51		60		59		56		60		62	
西岬小	3	4	1	1	6	3	1	2	1	4	5	4	4	4	2	2	3	2	3	4	2	6	1	6
	7		2		9		3		5		9		8		4		5		7		8		7	
房南小	8	7	7	7	4	6	2	7	5	6	6	7	5	3	12	14	9	7	11	10	12	8	8	13
	15		14		10		9		11		13		8		26		16		21		20		21	
神余小	1	1			2	1	1					1	3			3	1	1		1	1	1	3	2
	2		0		3		1		0		1		3		3		2		1		2		5	
豊房小	3	2	2	2	4	4	3	2	6	3	6	5	5	3	10	2	3	3	4	2	3	6	5	7
	5		4		8		5		9		11		8		12		6		6		9		12	
館野小	6	8	5	8	12	10	10	6	12	10	13	5	19	7	8	12	4	10	8	7	11	9	15	20
	14		13		22		16		22		18		26		20		14		15		20		35	
九重小	1	2	2	2	6	6	3	3	5	5	5	1	7	4	7	5	6	6	7	4	5	5	8	7
	3		4		12		6		10		6		11		12		12		11		10		15	
合 計	93	99	103	97	101	109	128	76	117	105	130	103	144	94	124	143	139	131	152	129	163	154	146	176
	192		200		210		204		222		233		238		267		270		281		317		322	
前年比	▲ 8		▲ 10		6		▲ 18		▲ 11		▲ 5		▲ 29		▲ 3		▲ 11		▲ 36		▲ 5		▲ 10	

※ 青色=複式学級の可能性が高い学年（2学年20人以下）・オレンジ色=複式学級（現在）・緑色=複式解消学年（現在）・網掛け=男女比の極端な偏り。  
 ※ 特別支援学級の児童は、現学年に含む。

✓ 全体的に、複式学級の増加、男女比の極端な偏りが顕在化する。

### ② 中学校 生徒数（予測値：学年別／男女別）

※ 生徒数=令和5年5月1日時点 ※ 未就学児=令和5年4月1日時点

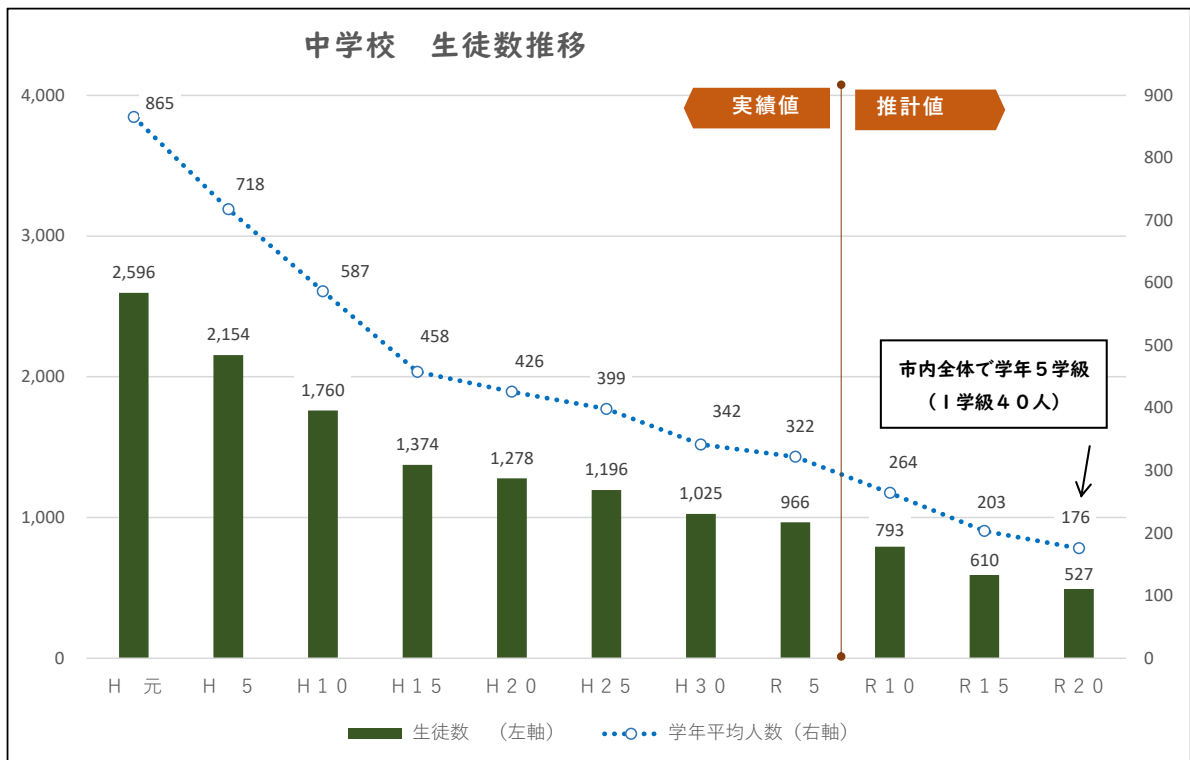
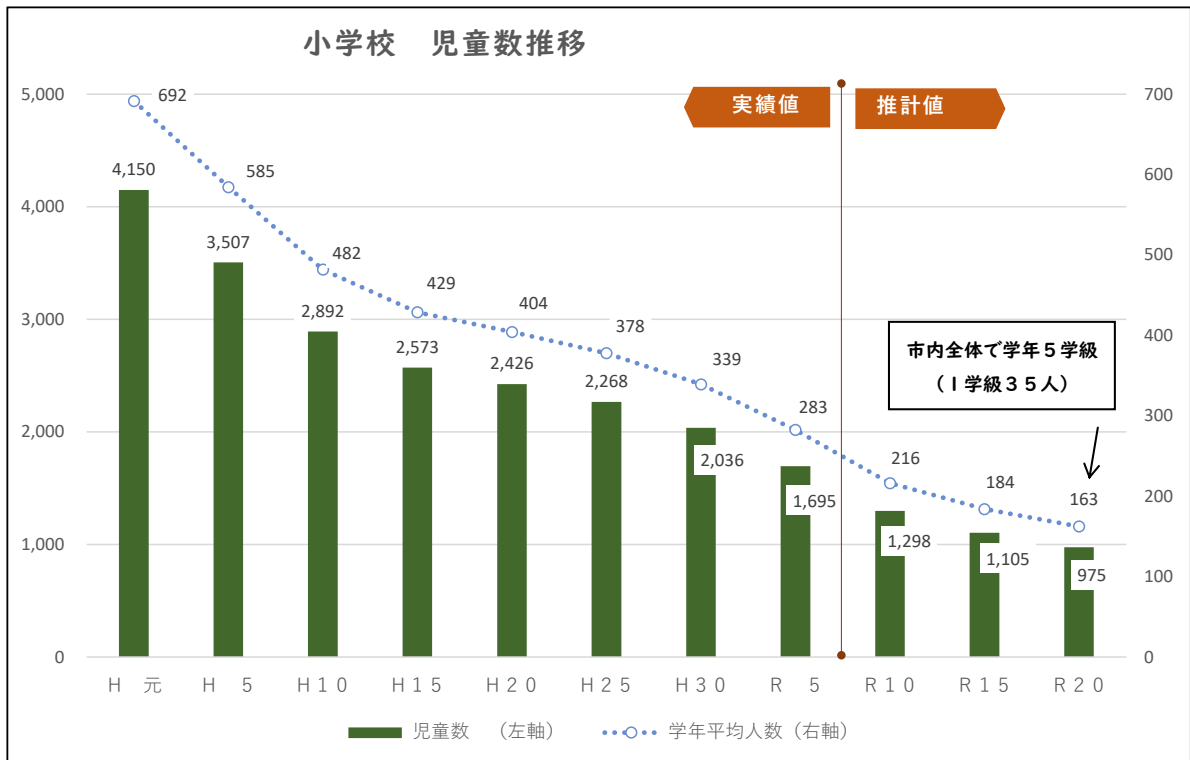
年 齢	3才		4才		5才		6才		7才		8才		9才		10才		11才		12才		13才		14才	
出生年度	R 元		H 30		H 29		H 28		H 27		H 26		H 25		H 24		H 23		H 22		H 21		H 20	
入 学 年 (男・女)	R 14		R 13		R 12		R 11		R 10		R 9		R 8		R 7		R 6		1年生		2年生		3年生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
第一中	27	12	20	18	22	21	22	11	13	31	32	24	27	31	32	33	24	24	36	18	36	30	24	30
	39		38		43		33		44		56		58		65		48		54		66		54	
館山中	99	57	92	81	102	75	117	80	99	98	98	100	114	88	119	113	114	139	135	113	130	116	115	109
	156		173		177		197		197		198		202		232		253		248		246		224	
房南中	2	7	5	6	6	7	5	3	12	14	9	7	11	10	12	8	8	13	12	8	14	13	13	14
	9		11		13		8		26		16		21		20		21		20		27		27	
合 計	128	76	117	105	130	103	144	94	124	143	139	131	152	129	163	154	146	176	183	139	180	159	152	153
	204		222		233		238		267		270		281		317		322		322		339		305	
前年比	▲ 18		▲ 11		▲ 5		▲ 29		▲ 3		▲ 11		▲ 36		▲ 5		-		▲ 17		34		▲ 26	

※ 特別支援学級の生徒は、現学年に含む。

※ 私立中学校への進学者数は、考慮せず（過去の実績では、毎年約3.5%が私立学校への進学率）

✓ 第一中学校では、クラス替えが不可能となる学校規模が予測される。  
 ✓ 房南中学校では、10人以下の学級が予測される。

## 2 児童・生徒数（推移）



### 3 学校・学年別の児童・生徒数（予測値）

#### ① 小学校 児童数

□ 白色 → 実数値：令和5年5月1日時点児童数

□ 青色 → 概ね実数値：令和5年4月1日時点住民基本台帳人口を基準に、過去の指定校変更及び特別支援学級の実績を考慮した数値

□ 黄色 → 予測値：令和5年4月1日以降の出生予測（国立社会保障人口問題研究所の試算方法に準ずる）

□ ※印 → 複式学級となる可能性がある学級（連続する学年の合計18人以下／複式学級基準16人以下）

#### ■ 船形小学校

年 度	種 別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小 計		学年 平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	8	①	8	①	12	①	15	①	11	①	16	①	70	⑥	11.7
	特別支援													17	③	2.8
R 8	普通学級	9	①	6	複式	8	複式	8	①	12	①	15	①	58	⑤	9.7
	特別支援													13	③	2.2
R 10	普通学級	5	①	12	①	9	複式	6	複式	8	複式	8	複式	48	④	8.0
	特別支援													7	②	1.2
R 12	普通学級	7	①	9	複式	5	複式	12	①※	9	複式	6	複式	48	④	8.0
	特別支援													6	②	1.0
R 14	普通学級	7	①	7	複式	7	複式	9	複式	5	複式	12	①	47	④	7.8
	特別支援													6	②	1.0
R 16	普通学級	7	①	7	複式	7	複式	7	複式	7	複式	9	①	44	④	7.3
	特別支援													6	①	1.0
R 18	普通学級	6	①	6	複式	7	複式	7	複式	7	複式	7	①	40	④	6.7
	特別支援													6	①	1.0
R 20	普通学級	6	①	6	複式	6	複式	6	複式	7	複式	7	①	38	④	6.3
	特別支援													6	①	1.0

#### ■ 那古小学校

年 度	種 別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小 計		学年 平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	30	①	22	①	26	①	30	①	40	②	39	②	187	⑧	31.2
	特別支援													25	④	4.2
R 8	普通学級	26	①	27	①	30	①	22	①	26	①	30	①	161	⑥	26.8
	特別支援													21	③	3.5
R 10	普通学級	27	①	18	①	26	①	27	①	30	①	22	①	150	⑥	25.0
	特別支援													19	③	3.2
R 12	普通学級	22	①	24	①	27	①	18	①	26	①	27	①	144	⑥	24.0
	特別支援													20	③	3.3
R 14	普通学級	21	①	22	①	22	①	24	①	27	①	18	①	134	⑥	22.3
	特別支援													19	③	3.2
R 16	普通学級	20	①	21	①	21	①	22	①	22	①	24	①	130	⑥	21.7
	特別支援													18	③	3.0
R 18	普通学級	19	①	19	①	20	①	21	①	21	①	22	①	122	⑥	20.3
	特別支援													18	③	3.0
R 20	普通学級	18	①	19	①	19	①	19	①	20	①	21	①	116	⑥	19.3
	特別支援													18	③	3.0

■ 北条小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	68	②	78	③	79	③	85	③	96	③	112	③	518	⑰	86.3
	特別支援													65	⑨	10.8
R 8	普通学級	69	②	72	③	68	②	78	③	79	③	85	③	451	⑰	75.2
	特別支援													65	⑨	10.8
R 10	普通学級	71	③	55	②	69	②	72	③	68	②	78	③	413	⑮	68.8
	特別支援													62	⑧	10.3
R 12	普通学級	56	②	56	②	71	③	55	②	69	②	72	③	379	⑭	63.2
	特別支援													58	⑧	9.7
R 14	普通学級	53	②	55	②	56	②	56	②	71	③	55	②	346	⑬	57.7
	特別支援													54	⑧	9.0
R 16	普通学級	50	②	52	②	53	②	55	②	56	②	56	②	322	⑫	53.7
	特別支援													51	⑧	8.5
R 18	普通学級	49	②	49	②	50	②	52	②	53	②	55	②	308	⑫	51.3
	特別支援													48	⑦	8.0
R 20	普通学級	48	②	48	②	49	②	49	②	50	②	52	②	296	⑫	49.3
	特別支援													45	⑥	7.5

■ 館山小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	49	②	42	②	54	②	50	②	45	②	53	②	293	⑫	48.8
	特別支援													50	⑧	8.3
R 8	普通学級	43	②	41	②	49	②	42	②	54	②	50	②	279	⑫	46.5
	特別支援													44	⑦	7.3
R 10	普通学級	42	②	44	②	43	②	41	②	49	②	42	②	261	⑫	43.5
	特別支援													41	⑥	6.8
R 12	普通学級	40	②	40	②	42	②	44	②	43	②	41	②	250	⑫	41.7
	特別支援													36	⑤	6.0
R 14	普通学級	38	②	39	②	40	②	40	②	42	②	44	②	243	⑫	40.5
	特別支援													36	⑤	6.0
R 16	普通学級	36	②	38	②	38	②	39	②	40	②	40	②	231	⑫	38.5
	特別支援													36	⑤	6.0
R 18	普通学級	35	①	35	①	36	②	38	②	38	②	39	②	221	⑩	36.8
	特別支援													36	⑤	6.0
R 20	普通学級	34	①	35	①	35	①	35	①	36	②	38	②	213	⑧	35.5
	特別支援													34	⑤	5.7

■ 西岬小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	6	①	7	複式	4	複式	5	複式	6	複式	7	①	35	④	5.8
	特別支援													4	②	0.7
R 8	普通学級	3	複式	4	複式	6	複式	7	複式	4	複式	5	複式	29	③	4.8
	特別支援													2	①	0.3
R 10	普通学級	2	複式	6	複式	3	複式	4	複式	6	複式	7	複式	28	③	4.7
	特別支援													3	①	0.5
R 12	普通学級	4	①	5	複式	2	複式	6	複式	3	複式	4	①	24	④	4.0
	特別支援													2	①	0.3
R 14	普通学級	3	複式	4	複式	4	複式	5	複式	2	複式	6	複式	24	③	4.0
	特別支援													2	①	0.3
R 16	普通学級	3	複式	3	複式	3	複式	4	複式	4	複式	5	複式	22	③	3.7
	特別支援													1	①	0.2
R 18	普通学級	3	複式	3	複式	3	複式	3	複式	3	複式	4	複式	19	③	3.2
	特別支援													0		0.0
R 20	普通学級	3	複式	3	複式	3	複式	3	複式	3	複式	3	複式	18	③	3.0
	特別支援													0		0.0

■ 房南小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	平均
R 6	普通学級	11	①	8	①	22	①	14	①	19	①	18	①	92	⑥	15.3
	特別支援													12	②	2.0
R 8	普通学級	8	①	10	①	11	①	8	①	22	①	14	①	73	⑥	12.2
	特別支援													10	②	1.7
R 10	普通学級	12	①	9	①※	8	①※	10	①※	11	①	8	①	58	⑥	9.7
	特別支援													7	②	1.2
R 12	普通学級	10	①	13	①	12	①	9	①※	8	①※	10	①※	62	⑥	10.3
	特別支援													8	②	1.3
R 14	普通学級	9	①	10	①	10	①	13	①	12	①	9	①	63	⑥	10.5
	特別支援													8	②	1.3
R 16	普通学級	9	①	9	①※	9	①※	10	①	10	①	13	①	60	⑥	10.0
	特別支援													7	②	1.2
R 18	普通学級	8	①	8	①※	9	①※	9	①※	9	①※	10	①	53	⑥	8.8
	特別支援													6	①	1.0
R 20	普通学級	8	①	8	複式	8	複式	8	①※	9	①※	9	①※	50	⑤	8.3
	特別支援													6	①	1.0

■ 豊房小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	平均
R 6	普通学級	10	①	8	複式	5	複式	6	複式	4	複式	8	①	41	④	6.8
	特別支援													11	③	1.8
R 8	普通学級	5	①	8	①※	10	①※	8	複式	5	複式	6	①	42	⑤	7.0
	特別支援													9	②	1.5
R 10	普通学級	4	①	7	複式	5	複式	8	①※	10	①※	8	①	42	⑤	7.0
	特別支援													3	①	0.5
R 12	普通学級	5	①	5	複式	4	複式	7	複式	5	複式	8	①	34	④	5.7
	特別支援													3	①	0.5
R 14	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	4	複式	7	①	31	④	5.2
	特別支援													3	①	0.5
R 16	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	5	①	30	④	5.0
	特別支援													2	①	0.3
R 18	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	5	①	30	④	5.0
	特別支援													1	①	0.2
R 20	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	5	①	30	④	5.0
	特別支援													0	①	0.0

■ 神余小学校

年度	種別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小計		学年
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	平均
R 6	普通学級	1	複式	3	複式	3	複式	2	複式	1	複式	2	複式	12	③	2.0
	特別支援													0		0.0
R 8	普通学級	1	①	0		1	複式	3	複式	3	複式	2	複式	10	③	1.7
	特別支援													0		0.0
R 10	普通学級	0		3	複式	1	複式	0		1	複式	3	複式	8	②	1.3
	特別支援													0		0.0
R 12	普通学級	1	複式	2	複式	0		3	複式	1	複式	0		7	②	1.2
	特別支援													0		0.0
R 14	普通学級	1	複式	1	複式	1	複式	2	複式	0		3	①	8	③	1.3
	特別支援													0		0.0
R 16	普通学級	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	2	複式	7	③	1.2
	特別支援													0		0.0
R 18	普通学級	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	6	③	1.0
	特別支援													0		0.0
R 20	普通学級	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	1	複式	6	③	1.0
	特別支援													0		0.0

■ 館野小学校

年 度	種 別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小 計		学年
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	平均
R 6	普通学級	12	①	24	①	14	①	12	①	11	①	19	①	92	⑥	15.3
	特別支援													17	③	2.8
R 8	普通学級	11	①	15	①	12	①	24	①	14	①	12	①	88	⑥	14.7
	特別支援													16	③	2.7
R 10	普通学級	9	①	15	①	11	①	15	①	12	①	24	①	86	⑥	14.3
	特別支援													11	②	1.8
R 12	普通学級	11	①	10	①	9	①	15	①	11	①	15	①	71	⑥	11.8
	特別支援													10	②	1.7
R 14	普通学級	10	①	11	①	11	①	10	①	9	①	15	①	66	⑥	11.0
	特別支援													10	②	1.7
R 16	普通学級	10	①	10	①	10	①	11	①	11	①	10	①	62	⑥	10.3
	特別支援													10	②	1.7
R 18	普通学級	10	①	10	①	10	①	10	①	10	①	11	①	61	⑥	10.2
	特別支援													9	②	1.5
R 20	普通学級	9	①	9	①	10	①	10	①	10	①	10	①	58	⑥	9.7
	特別支援													7	②	1.2

■ 九重小学校

年 度	種 別	1年		2年		3年		4年		5年		6年		小 計		学年
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	平均
R 6	普通学級	5	①	10	①	10	①	8	複式	7	複式	6	①	46	⑤	7.7
	特別支援													16	③	2.7
R 8	普通学級	5	①	10	複式	5	複式	10	①	10	①	8	①	48	⑤	8.0
	特別支援													10	③	1.7
R 10	普通学級	4	①	11	複式	5	複式	10	複式	5	複式	10	①	45	④	7.5
	特別支援													6	②	1.0
R 12	普通学級	5	複式	3	複式	4	複式	11	複式	5	複式	10	複式	38	③	6.3
	特別支援													5	②	0.8
R 14	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	3	複式	4	複式	11	①	33	④	5.5
	特別支援													5	②	0.8
R 16	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	3	①	28	④	4.7
	特別支援													5	①	0.8
R 18	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	5	①	30	④	5.0
	特別支援													6	①	1.0
R 20	普通学級	5	①	5	複式	5	複式	5	複式	5	複式	5	①	30	④	5.0
	特別支援													4	①	0.7



## ② 中学校 生徒数

- 白色 ➡ 実数値：令和5年5月1日時点生徒数
- 灰色 ➡ 概ね実数値：令和5年5月1日時点の小学校児童数から、過去の私立中学校への進学実績を考慮した数値
- 青色 ➡ 概ね実数値：令和5年4月1日時点住民基本台帳人口を基準とした小学校予測値から、過去の私立中学校への進学実績を考慮した数値
- 黄色 ➡ 予測値：令和5年4月1日以降の出生予測（国立社会保障人口問題研究所の試算方法に準ずる）

### ■ 第一中学校

年 度	種 別	1 年		2 年		3 年		小 計		学年 平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	40	①	49	②	64	②	153	⑤	51.0
	特別支援							14	③	4.7
R 8	普通学級	50	②	54	②	40	①	144	⑤	48.0
	特別支援							24	④	8.0
R 10	普通学級	37	①	44	②	50	②	131	⑤	43.7
	特別支援							24	④	8.0
R 12	普通学級	37	①	29	①	37	①	103	③	34.3
	特別支援							14	③	4.7
R 14	普通学級	34	①	32	①	37	①	103	③	34.3
	特別支援							14	③	4.7
R 16	普通学級	31	①	29	①	34	①	94	③	31.3
	特別支援							13	③	4.3
R 18	普通学級	29	①	32	①	31	①	92	③	30.7
	特別支援							12	③	4.0
R 20	普通学級	28	①	29	①	29	①	86	③	28.7
	特別支援							12	③	4.0

### ■ 館山中学校

年 度	種 別	1 年		2 年		3 年		小 計		学年 平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	222	⑥	226	⑥	230	⑥	678	⑩	226.0
	特別支援							60	⑨	20.0
R 8	普通学級	163	⑤	199	⑤	222	⑥	584	⑩	194.7
	特別支援							79	⑪	26.3
R 10	普通学級	162	⑤	161	⑤	163	⑤	486	⑩	162.0
	特別支援							90	⑬	30.0
R 12	普通学級	145	④	165	⑤	162	⑤	472	⑭	157.3
	特別支援							76	⑫	25.3
R 14	普通学級	132	④	144	④	145	④	421	⑫	140.3
	特別支援							63	⑨	21.0
R 16	普通学級	127	④	135	④	132	④	394	⑫	131.3
	特別支援							57	⑧	19.0
R 18	普通学級	117	③	116	③	127	④	360	⑩	120.0
	特別支援							54	⑧	18.0
R 20	普通学級	110	③	115	③	117	③	342	⑨	114.0
	特別支援							55	⑧	18.3

■ 房南中学校

年 度	種 別	1 年		2 年		3 年		小 計		学年 平均
		人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	
R 6	普通学級	17	①	18	①	24	①	59	③	19.7
	特別支援							9	③	3.0
R 8	普通学級	19	①	18	①	17	①	54	③	18.0
	特別支援							8	②	2.7
R 10	普通学級	21	①	14	①	19	①	54	③	18.0
	特別支援							8	②	2.7
R 12	普通学級	11	①	8	①	21	①	40	③	13.3
	特別支援							6	②	2.0
R 14	普通学級	8	①	10	①	11	①	29	③	9.7
	特別支援							4	②	1.3
R 16	普通学級	12	①	9	①	8	①	29	③	9.7
	特別支援							4	②	1.3
R 18	普通学級	10	①	13	①	12	①	35	③	11.7
	特別支援							5	②	1.7
R 20	普通学級	9	①	10	①	10	①	29	③	9.7
	特別支援							3	①	1.0

## 学校規模が児童生徒に与えるメリット・デメリット

(記述分類)

- ➡ 文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」引用
- ➡ 館山市学校再編調査検討委員会での意見(元教員) ※ 文部科学省資料に記述以外の補足事項含む

### I 小規模校(単一学級かつ15人以下)のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○● 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい</li> <li>○ 意見や感想を発表できる機会が多くなる</li> <li>○ 教材・教具などを一人ひとりに行き渡せやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラス替えのメリットを享受できない</li> <li>○ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏など集団学習の実施に制約が生じる</li> <li>● 集団学習(体育・音楽)の醍醐味を経験しづらい</li> <li>○ 班活動やグループ分けに制約が生じる</li> <li>○ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる</li> <li>○ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる</li> <li>○● 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる</li> <li>● 少人数で子供達が互いの能力を理解しているため、授業は進むが思考の深まりや発見、考え方の広がり期待しにくい</li> </ul>
生 活 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる</li> <li>○ 家庭状況が把握しやすいため保護者と連携した効果的な指導ができる</li> <li>● 子供同士、教職員と子供が家庭的な雰囲気や日常生活を送っている</li> <li>● 特別な支援を必要とする児童への支援がしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラス替えのメリットを享受できない</li> <li>○ 男女比の偏りが生じやすい</li> <li>● 卒業までの同じメンバーによる人間関係の固定化</li> <li>○ 学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる</li> <li>○ 指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける</li> <li>○ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる</li> <li>○ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる</li> </ul>
学 校 運 営 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○● 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える</li> <li>○● 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行える</li> <li>○ 地域での協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい</li> <li>● 保護者地域住民が学校行事に積極的に参加してくれる</li> <li>● 教職員相互の連絡調整や連携が取り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クラス替えのメリットを享受できない</li> <li>○ クラブ活動や部活動の種類が限定される</li> <li>○ 運動会・文化祭・遠足等の集団活動・行事の教育効果が下がる</li> <li>○ 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になる可能性がある</li> <li>○● 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が多く、校内研修の時間が十分確保できない</li> <li>○● 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加</li> </ul>

<p>やすい</p>	<p>することが困難となる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○● 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会等が成立しない）</li> <li>○● 学校が直面する様々な課題に、組織的に対応することが困難な場合がある</li> <li>○ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある（中学校）</li> <li>○ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる</li> <li>○ 経験年数・専門性・男女比等バランスの取れた教員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる</li> </ul>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 過小規模校（複式学級）のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学 習 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校のメリットをより享受可能</li> <li>○ 教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実することができる</li> <li>● 個別指導が中心となり個に応じた指導がほとんどとなる</li> <li>● 教材や実験器具などを一人ひとりが使用できるため、傍観者にならずに学習ができる</li> <li>● 水泳授業など全校で実施することで、目標が上級生の様子で分かるため水を怖がる（水泳授業を嫌いになる）子が出にくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員に特別な指導技術が求められる</li> <li>● 異なる学年での合同授業となるため、系統的な指導計画を組むことが難しい</li> <li>● わたりによる授業を行うと教師による直接指導が、通常の半分の指導時間数で年間課程を修了する</li> <li>● 子供同士で考えさせることが出来ないため（同級生が少ない・時間数の制限がある）、授業は先に進めやすいが学習が深まらない</li> <li>● 話し合いでの学習が成り立ちにくい</li> <li>○ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる</li> <li>● 実験・観察・見学などが多い理科社会の授業においても、半分の時間（20分）で知識を中心に伝達することとなり好ましくない</li> <li>○ 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある</li> <li>● 競争意識が生まれずに現状に満足してしまう</li> </ul>
生 活 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校のメリットをより享受可能</li> <li>● 日常的に上級生が下級生の指導を行うことで、集団としての一体感が育つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある</li> <li>● 子供同士の人間関係のトラブルが発生すると、逃げ場が無くなる</li> </ul>
学 校 運 営 面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校のメリットをより享受可能</li> <li>● 教員が成績処理に費やす時間が少ない分、児童との関係が密接になることもある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい</li> <li>● 校務分掌は同じであり教員一人ひとりの負担が大きい</li> <li>● 教員が休暇を取得すると学校全体の教育活動に影響が出るため、病気でも休みにくい</li> </ul>

### 3 標準規模校（クラス替え）のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○● 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる</li> <li>○● ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが可能となる</li> <li>○● 学年内での教員の役割分担による専科指導（教科担任制）が可能となる</li> <li>● クラスを交換して指導を行うことで児童生徒のつまづきを知り、互いに指導の手立てを考えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しく、個別指導の時間が不足することが多い</li> </ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○● 新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる</li> <li>● 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすく、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい</li> <li>○ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる</li> <li>○ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細やかな指導が可能となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しく、生徒指導上の問題が生じた場合、発見が遅れる可能性がある</li> </ul>
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる</li> <li>○ クラス同士が切磋琢磨する環境を作ることができる</li> <li>● 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい</li> <li>● 教職員同士で学習指導や生徒指導等について相談・研究・協力して取り組み、教職員間で切磋琢磨する機会ができる</li> <li>● 校務分掌（分担）を組織的に行いやすく、出張・研修等へ参加しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特別教室や体育館等の施設設備の利用面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある</li> </ul>

### 4 学校規模の小規模化による課題点が、児童生徒に与える影響について(文部科学省手引きより)

- 協働的な学びの実現が困難となる
- 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
- 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- 教員への依存心が強まる可能性がある
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
- 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

※ 学級数が少ないことによる学校運営上の課題は、いずれも一般的に想定されるものであり、実際に個別の課題が生じるかどうかは、地域や児童生徒の実態、教育課程や指導方法の工夫の状況、教育委員会や地域・保護者からの支援体制など、学校が置かれた諸条件により大きく異なります。



## (目指すべき方針)

子供たちが今以上に「安全安心で豊かな学校生活を送ることができる環境を整える」ためにも、学校再編を行いハード面・ソフト面の両面から限られた予算の『効果的な投資』をしていく必要がある。(基本指針／P34～35)

学校施設の集約化（学校再編）に伴う環境改善のポイント
<p>(ハード面)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ 学校施設の集約化を図ることで、学校生活の環境改善のため適切な投資を行うことが可能<ul style="list-style-type: none"><li>・ 施設の耐用年数を延伸するため躯体の長寿命化改修の実施</li><li>・ 外壁や内部仕上げなどの定期的な大規模修繕</li><li>・ 建物に付随する機器、設備類の定期的な更新</li></ul></li></ul>
<p>(ソフト面)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ 教材備品、図書類などの充実<ul style="list-style-type: none"><li>・ ICT機器、実験器具、図書、遊具など集約化した学校に集中的な投資が可能</li></ul></li><li>□ 多様化する現代社会に対応した様々な人材配置<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別支援教育学習支援員、スクールカウンセラー、学力向上推進コーディネーターなど、集約化した学校に集中的な人的資源を投入することも可能</li></ul></li></ul>

## 千葉県内自治体 学校再編に関する方針について

### ■ 県内26市調査（県北西部の人口増加自治体を除く）

#### ① 学校再編方針・計画等の策定状況

	団体数	割合	備考
策定あり	20	77%	館山市該当
策定なし	6	23%	

#### ② 目標とする学校規模

（小学校）

分類	団体数	割合	備考
12学級未満（単一学級あり）	0	—	
12～18学級（学年2～3学級）	11	55%	国基準
12～24学級（学年2～4学級）	3	15%	
目標値設定なし	6	30%	館山市該当

（中学校）

分類	団体数	割合	備考
6学級未満（単一学級あり）	0	—	
6～18学級（学年2～6学級）	4	20%	
9～18・24学級（学年3～6・8学級）	5	25%	
12～18・24学級（学年4～6・8学級）	5	25%	国基準
目標値設定なし	6	30%	館山市該当

#### ③ 学校規模の下限値

（小学校）

分類	団体数	割合	備考
6学級未満（複式学級あり）	0	—	
6学級以上（学年1学級）	12	60%	館山市該当（90人以上）
120人以上（学年1学級）	3	15%	
7学級以上（学年1学級以上）	1	5%	
下限の設定なし	4	20%	

（中学校）

分類	団体数	割合	備考
3学級未満（複式学級あり）	0	—	
3学級以上（学年1学級）	3	15%	館山市該当（90人以上）
4学級以上（学年1学級以上）	3	15%	
6学級以上（学年2学級）	8	40%	
下限の設定なし	6	30%	



## 複式学級の概要

### 1 複式学級とは

- ✓ 2つ以上の学年で構成される学級
- ✓ 「直接指導」と「間接指導（※）」を組み合わせる

（※間接指導）一方の学年に教師が直接指導しているとき、他方の学年に学習の進め方を事前に理解させ、子供達だけで学習を進めさせることを言います。

### 2 複式学級の編制基準（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）

- 小学校：引き続き学年の合計児童数が、**16人以下**となる場合
- 中学校：引き続き学年の合計生徒数が、**8人以下**となる場合
- ※ 特別支援学級に在籍する児童・生徒は除く。
- ※ 小学校1年生を含む場合の基準児童数は、8人以下となる。

### 3 複式学級が発生する学校現場の実態

#### ① 増置教諭の活用による複式解消

複式学級の教育上の課題点を考慮し、学校長の裁量により、増置教諭を活用して複式学級を解消する場合もある。

- ※ 令和4年度実施校（西岬小・豊房小・九重小）
- ※ 学級を持たない教員配置が不可能となり、学級担任が教務主任の役割を兼務する。

	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計	
	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級
法令基準	4	①	6	複式 A	6	複式 A	10	①	7	複式 B	7	複式 B	40	④
現場実態	4	①	6	複式 A	6	複式 A	10	①	7	①	7	①	40	⑤
増置教諭配置による複式解消														

法令基準数	8人（校長・教頭・養護教諭・学級担任④・増置教諭）
実態配置状況	8人（校長・教頭・養護教諭・学級担任⑤）

#### ② 学校全体の教育課程の見直し

複式学級を編制せざるを得ない学級が一つでも発生した場合、学校全体の教育課程の見直しを実施している。

- 主要科目（国語・算数・理科・社会・外国語）の「間接指導（渡りの授業）」は、子供への教育上の課題点が特に大きいと考え、学年別に授業が出来るような工夫をしている。
- 上記、2年生・3年生において、国語・算数・理科・社会を学年別に教えるためには、管理職（教頭）

における授業実施（週／10～15時数）や、複式学級“以外”の他学年の技能教科（体育・音楽など）にて、複数学年を合わせた合同授業を実施することで、他学年の担任教員の時間を確保し、複式学級の授業を実施する。

令和5年度 時間割 (2・3年／複式学級 4・5年／増置教諭により複式解消学級)																		
曜日	月						火						水					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
1年生	国語(担任)	算数(担任)	国語(担任)	生活(1年担任)	道徳(担任)		国語(担任)	算数(担任)	音楽(1年担任)	国語(担任)	生活(1年担任)		算数(担任)	体育(2年担任)	図工(1年担任)	音楽(1年担任)	国語(担任)	
2年生(複式)	国語(担任)	算数(担任)	道徳(担任)	生活(1年担任)	国語(担任)		算数(教頭)	国語(担任)	算数(担任)	国語(担任)	生活(1年担任)		算数(教頭)	算数(担任)	算数(担任)	国語(担任)	国語(担任)	
3年生(複式)	算数(担任)	算数(担任)	外国語(専科)	体育(4年担任)	音楽(専科)		国語(担任)	体育(4年担任)	算数(担任)	算数(担任)	総合(担任)		算数(担任)	理科(専科)	道徳(担任)	社会(教頭)	国語(担任)	
4年生	算数(担任)	算数(担任)	総合(担任)	外国語(専科)	音楽(専科)		国語(担任)	体育(4年担任)	算数(担任)	算数(担任)	理科(専科)		算数(担任)	社会(担任)	算数(担任)	道徳(担任)	書写(専科)	総合(担任)
5年生	国語(担任)	算数(担任)	社会(担任)	外国語(専科)	理科(担任)		社会(担任)	算数(担任)	算数(担任)	算数(担任)	道徳(担任)		算数(担任)	理科(担任)	理科(担任)	体育(5年担任)	総合(担任)	外国語(専科)
6年生	外国語(担任)	算数(担任)	国語(担任)	理科(担任)	社会(教頭)		国語(担任)	算数(担任)	算数(担任)	算数(担任)	図工(担任)		算数(担任)	算数(担任)	社会(教頭)	算数(担任)	外国語(担任)	総合(担任)

曜日	木						金						土						
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
1年生	算数(担任)	図工(1年担任)	国語(担任)	体育(2年担任)	学活(担任)		国語(担任)	算数(担任)	体育(2年担任)	生活(1年担任)	国語(担任)		算数(担任)	算数(担任)	国語(担任)	委員会(担任)			
2年生(複式)	算数(担任)	算数(担任)	国語(担任)	理科(担任)	学活(担任)		国語(担任)	算数(担任)	理科(担任)	生活(1年担任)	国語(担任)		算数(担任)	算数(担任)	国語(担任)	道徳(担任)			
3年生(複式)	算数(担任)	国語(担任)	図工(4年担任)	理科(担任)	学活(担任)		国語(担任)	算数(担任)	理科(担任)	総合(担任)	社会(教頭)		算数(担任)	算数(担任)	社会(担任)	委員会(担任)			
4年生	算数(担任)	理科(専科)	社会(担任)	社会(担任)	国語(担任)		国語(担任)	理科(専科)	算数(担任)	社会(担任)	道徳(担任)		理科(専科)	算数(担任)	算数(担任)	委員会(担任)			
5年生	算数(担任)	社会(担任)	総合(担任)	国語(担任)	学活(担任)		国語(担任)	体育(5年担任)	家庭科(教頭)	音楽(専科)	算数(担任)		体育(5年担任)	算数(担任)	委員会(担任)				
6年生	算数(担任)	算数(担任)	理科(担任)	道徳(担任)	社会(教頭)		国語(担任)	算数(担任)	算数(担任)	算数(担任)	算数(担任)		算数(担任)	算数(担任)	委員会(担任)				

時間	合計			指導方法別 時数						時数割合		
	時数	複式(間接)	複式(直接)	複式(間接)	複式(直接)	単式(担任外)	単式(通常)	単式	複式	単式	複式	単式
1年生	26	0	10	0	10	0	16	16	38.5%	61.5%	38.5%	61.5%
2年生(複式)	26	2	11	2	11	5	8	8	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
3年生(複式)	28	2	7	2	7	2	17	17	32.1%	67.9%	32.1%	67.9%
4年生	30	0	6	0	6	0	24	24	20.0%	80.0%	20.0%	80.0%
5年生	30	0	6	0	6	1	23	23	20.0%	80.0%	20.0%	80.0%
6年生	30	0	6	0	6	3	21	21	20.0%	80.0%	20.0%	80.0%

担任	週全体時数		割合	
	指導時数	割合	指導時数	割合
担任A(1年)	30	86.7%	27	90.0%
担任B(2・3年)	30	90.0%	22	73.3%
担任C(4年)	30	83.3%	12	40.0%

高学年では、なるべく単式授業となるよう工夫している

## 市内中学校の現状（令和４年度）

### 1 生徒数・学級数

学校名	1年生		2年生		3年生		特別支援		合計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
館山中	229	⑥	206	⑥	239	⑥	40	⑥	714	⑳
第一中	64	②	46	②	62	②	11	③	183	⑨
房南中	24	①	26	①	20	①	5	①	75	⑥

※ 中学校における国が示す標準規模校 1学年4～6クラス規模

### 2 教職員数（※常勤人数／教科担任講師除く）

学校名	人数	備考
館山中	46人	校長①・教頭②・養護①・栄養①・教諭⑳・常勤講師④
第一中	20人	校長①・教頭①・養護①・教諭⑯・常勤講師①
房南中	14人	校長①・教頭①・養護①・教諭⑩・常勤講師①

### 3 部活動

学校名	部活数	男女別 部活数			
		運動部	文化部	男子	女子
第一中	9	7	2	8	9
館山中	16	12	4	14	15
房南中	5	4	1	4	4

#### （第一中学校）

No.	区分	男女	部活動名	1年			2年			3年			合計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	運動部	男女	陸上競技	6	8	14	4	4	8	6	2	8	16	14	30
2	運動部	男女	柔道	8	0	8	2	1	3	6	0	6	16	1	17
3	運動部	男女	剣道	2	0	2	1	2	3	1	2	3	4	4	8
4	運動部	男女	バスケットボール	6	6	12	6	4	10	4	11	15	16	21	37
5	運動部	男女	野球	4	1	5	1	2	3	5	0	5	10	3	13
6	運動部	男女	テニス	5	2	7	11	6	17	6	6	12	22	14	36
7	運動部	女	バレーボール	0	2	2	0	5	5	0	3	3	0	10	10
8	文化部	男女	吹奏楽	4	10	14	1	5	6	3	8	11	8	23	31
9	文化部	男女	造形	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	2
	合計			35	30	65	26	30	56	31	32	63	92	92	184

## (房南中学校)

No.	区分	男女	部活動名	1年			2年			3年			合計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	運動部	男女	陸上競技	5	2	7	7	0	7	3	4	7	15	6	21
2	運動部	男女	剣道	2	1	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3
3	運動部	男	野球	4	0	4	5	0	5	5	0	5	14	0	14
4	運動部	女	バスケットボール	0	2	2	0	4	4	0	4	4	0	10	10
5	文化部	男女	吹奏楽	3	8	11	1	10	11	3	2	5	7	20	27
	合計			14	13	27	13	14	27	11	10	21	38	37	75

## (館山中学校)

No.	区分	男女	部活動名	1年			2年			3年			合計		
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1	運動部	男女	陸上競技	9	11	20	10	11	21	7	7	14	26	29	55
2	運動部	男女	水泳	3	5	8	5	5	10	4	4	8	12	14	26
3	運動部	男女	柔道	12	2	14	4	1	5	8	0	8	24	3	27
4	運動部	男女	剣道	5	2	7	2	1	3	5	2	7	12	5	17
5	運動部	男女	バスケ	15	6	21	7	10	17	18	9	27	40	25	65
6	運動部	男女	サッカー	13	0	13	14	1	15	18	3	21	45	4	49
7	運動部	男女	バレー	6	12	18	18	15	33	15	24	39	39	51	90
8	運動部	男女	テニス	25	13	38	12	8	20	18	17	35	55	38	93
9	運動部	男女	卓球	9	11	20	13	9	22	12	6	18	34	26	60
10	運動部	男	野球	10	0	10	6	0	6	11	0	11	27	0	27
11	運動部	女	体操	0	4	4	0	9	9	0	1	1	0	14	14
12	運動部	女	ソフトボール	0	10	10	0	4	4	0	11	11	0	25	25
13	文化部	男女	吹奏楽	3	10	13	4	17	21	2	12	14	9	39	48
14	文化部	男女	美術	2	13	15	1	5	6	0	11	11	3	29	32
15	文化部	男女	情報科学	16	5	21	18	4	22	11	2	13	45	11	56
16	文化部	男女	生活	1	11	12	0	8	8	1	7	8	2	26	28
	合計			129	115	244	114	108	222	130	116	246	373	339	712

## 学校再編後の児童のコメント（近隣自治体HPから）

※ コメントは原文のまま（○印→肯定的な意見／▲印→中間的な意見／×→否定的な意見）

学 習 面	
教室で受ける授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 賑やかで教室が明るい。</li> <li>○ 色々な人と勉強が出来て楽しい。</li> <li>○ 自分やみんなの意見を聞き合えるようになった。隣の席の人に教え合ったりできるようになった。</li> <li>▲ 人数が少なかったときは、勉強に集中できたけど、人数が多くなってきたら、あまり集中できなくなった。</li> <li>○ 授業以外でも、畑の先生がきてサツマイモの苗を植えて、芋掘りまでやって楽しかった。</li> <li>▲ どちらとも言えない。</li> <li>○ たくさんの人の意見が聞けるので、勉強になる。</li> </ul>
技能教科の授業 （体育・音楽など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ドッチボールは人数が多くいてなかなか終わらないから良い。</li> <li>○ 人がたくさんいて歌いやすい。</li> <li>○ 音楽では、大勢で歌えるので歌いやすくなった。</li> <li>× 体育では、先生が一人ずつに教えられないので大変</li> <li>○ 人数が多くなってよかったと思う。人数が少ないとあまり楽しくない。 （ドッジボールや色々なゲームなど）</li> <li>○ 人数が多くて楽しい。</li> <li>○ 体育は人数が多いので、競技もできるようになった。音楽は、人数が多い分、パート別にたくさんの人がいて心強い。</li> </ul>
特別教室 （理科の実験・図工・家庭科など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲ 変わらない。</li> <li>○ 班の中に入れてよい。</li> <li>○ 理科ではみんなで実験などをするので、結果などを比べやすい。また、一班が実験を失敗しても、ほかの班の実験を見たりすることができる。</li> <li>○ 図工は他の人と絵の具や筆を貸しあえる。</li> <li>○ 図工室があつていい。</li> <li>○ 理科は、色々な班の結果がわかるようになった。</li> <li>○ 図工は、色々な人のアイディアがあるので、自分のアイディアも浮かびやすい。</li> </ul>
グループ学習など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループの人数が多いからよい。</li> <li>○ 校外学習がある。</li> <li>○ みんなで意見を出し合って、一つのものを作れるようになった。</li> <li>× 人数が少ない方がよいと思う。（少ない人数の方が、少ない人数ならではのものができる）</li> <li>○ 多い人数で話し合いをしながら色々なものを作れるからよい。</li> <li>○ 時と場合によるが、まあ楽しい。</li> <li>○ 班の掲示物を作ったり、週で変わるようになったり、班で相談するようになった。</li> </ul>

生活面	
休み時間	<input type="radio"/> 人数が多くてよい。 <input type="radio"/> すごく楽しい。 <input type="radio"/> 同じ話題で、盛り上がるようになった。ドッジボールなどの大人数でやる遊びができるようになった。 <input type="radio"/> 人数が多い方が楽しいからよいと思う。 <input type="radio"/> ドッジボールができるようになった。
給食の時間	<input type="radio"/> 班で囲んで食べられるのがよい。 <input type="radio"/> みんなで食べられる。 <input type="radio"/> みんなで色々な話ができ、楽しい。毎日当番をしなくていいから大変ではない。 <input type="radio"/> 楽しい。 <input type="radio"/> 人数が増えて美味しく感じ、話題も増えるようになった。
清掃活動や係活動、委員会活動	<input type="radio"/> 係が色々あって楽しい。 <input type="radio"/> 掃除がすぐきれいになる。 <input checked="" type="radio"/> 委員会は、一つの委員会で2つ役割をしなくてよくなったから、大変じゃなくなった。 <input checked="" type="radio"/> 多いとふざけるから、人数が少ない方がよいと思う。 <input type="radio"/> 委員会、係の数が増えた。 <input checked="" type="radio"/> 清掃は人数も増え、掃除場所も増えた。 <input type="radio"/> 委員会は種類が増えた。
学校行事や校外活動等	
運動会やその他の学校行事	<input type="radio"/> 人数が多く、色々な種目があって楽しい。 <input checked="" type="radio"/> 人数が多くて大変。 <input checked="" type="radio"/> 変わらない。 <input type="radio"/> 人数が増えて、リレーなどが接戦になった。
陸上大会や体操大会、音楽発表会などの校外活動	<input checked="" type="radio"/> 変わらない。 <input type="radio"/> 音楽会は楽しい。 <input checked="" type="radio"/> 音楽会は、発表場所が減った。
校外学習や修学旅行などの課外活動	<input type="radio"/> 班がいっぱいあって楽しい。 <input type="radio"/> 初めての行事も増えた。
登下校がバス通学になったこと	<input checked="" type="radio"/> バスより歩いていく方が楽しかった。 <input type="radio"/> 歩くよりすごい楽。 <input checked="" type="radio"/> バスだと、歩いて見える景色が見えないから、歩きの方がいいと思う。 <input checked="" type="radio"/> 気にならない。 <input checked="" type="radio"/> つまらないときもある。 <input type="radio"/> 便利になった。 <input type="radio"/> 歩かなくてよくなった。
その他(学校生活全般・下校後等)	<input checked="" type="radio"/> 変わらない。 <input checked="" type="radio"/> 楽しいことも統合前より増えたと思うが、以前の学校生活の印象が強い。

各地区との協議結果（保護者意見について）

地区	組織名	人数	保護者		地域 代表	保護者意見
			小学校	未就学		
船形	船形地区学校のあり方を考える会	10	3	3	4	(小・中学校ともに) 「クラス替え可能な規模」での学校再編を望む
那古	那古地区学校のあり方を考える会	11	3	5	3	(小・中学校ともに) 「クラス替え可能な規模」での学校再編を望む
北条	北条地区学校のあり方を考える会	6	3	2	1	(将来に渡り)「クラス替え可能な規模」での学校再編を望む
館山	館山地区学校のあり方を考える会	6	3	2	1	(将来に渡り)「クラス替え可能な規模」での学校再編を望む
西岬	西岬地区学校のあり方を考える会	8	3	2	3	「クラス替えが可能な規模」での学校再編を望む
房南	房南地区学校のあり方を考える会	10	3	3	4	(小・中学校ともに)「クラス替え可能な規模」での学校再編を望む
						(小学校に関して) 市全体の学校再編を進めるなか、小学校に関しては保護者・子供の「選択肢」として市内に小規模校を残す必要性がある。
豊房	豊房地区学校のあり方を考える会	10	3	4	3	「クラス替えが可能な規模」での学校再編を望む
神余	神余学校再編委員会	17	9	1	7	「歴史ある小さな神余小学校」の良さを守り、更に活かしていく。 ※ 過小規模校（複式学級）の魅力を活かした新たな学校づくりを行う。
館野	館野地区学校のあり方を考える会	10	3	4	3	(今後の児童数の減少を考慮すると) 「今以上の学校規模」となるような学校再編を望む
九重	九重地区学校のあり方を考える会	9	3	3	3	「クラス替えが可能な規模」での学校再編を望む

## 『船形地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「船形地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 10名（小学校保護者3名・未就学児保護者3名・地区代表4名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
[市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年7月5日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月28日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月9日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月27日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月14日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年2月28日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月17日	保護者説明会（～令和5年4月10日まで意見聴取期間）
令和5年5月19日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月24日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月9日	船形地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年6月15日	船形地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）



(協議結果／保護者委員意見)

結 論
小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む
理 由
<ul style="list-style-type: none"><li>● 一定規模での集団生活を送ることで、多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。(人間関係の固定化回避)</li><li>● より多くの人間関係を、子供自身が選択して構築することが可能となる。また、人間関係に配慮が必要な場合にも対応可能となるため。</li></ul>
各委員の意見 (クラス替え可能な学校規模を望む意見)
<p><b>【小学校のあり方に関する事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 少しでも多くの友人と色々な経験をさせてあげたい。【多数意見】</li><li>○ 極端な男女比の偏りが発生する可能性があり、その状態で6年間を過ごすことが、子供にとって良いとは思えない。</li><li>○ 子供同士の関係性がこじれてしまい、どうしても修復が不可能となるような状態の場合、クラス替えという方法を取れなく卒業まで一緒にいなければならないのは、子供にとってかわいそう。</li><li>○ 船形こども園の保護者の中でも、船形小学校の小規模化を懸念している声があり、現に船形小ではなく那古小へ入学させようといった話も出ている状態であり、これらの推計値よりも更に小規模化が早まる懸念がある。 船形地区の子供達だけの学校運営は、既に現実的ではない。</li><li>○ 子供同士だけでなく、子供と教員の人間関係に配慮した学級編制が可能となることが魅力</li><li>○ 学校規模が大きくなれば、PTA役員など保護者の負担軽減にも繋がる。</li><li>○ 学校規模に関するメリット・デメリットを踏まえ、複合的に考えるとクラス替えが可能な規模が、子供たちにとって一番良いと思った。</li><li>○ 昔を思い出すと、単純にクラス替えが楽しかったしワクワクした。それを子供たちに経験させてあげたい。</li><li>○ 6年間同じメンバーでは、固定化された人間関係となってしまう。</li><li>○ 富津市の統合事例における子供の感想でもあったように、様々なグループ編制が可能となること、大人になっても社会で必要とされる集団行動を学ばせる(身につけさせる機会を与える)ことが出来る。</li><li>○ 人口規模の多い自治体の学校で出来ていることを、学校規模が小さく子供の人数が少ないという理由で経験させてあげられないのは、避けるべき。</li><li>○ 規模が大きければ、子供が自ら選べる環境を与えてあげられる。</li><li>○ 自分は、中学校で初めてクラス替えを経験したが、一言で言えば感動した。</li><li>○ 国が示す標準規模(2～3クラス)にこだわらず、子供の可能性を広げるためには、より大きな規模での再編でも良い。</li><li>○ 学年、3クラスぐらいがちょうど良い規模だと思う。卒業しても同級生全員の顔と名前を忘れないぐらいが良い。</li><li>○ これから(子供がもっと減る)を考えると、小さな学校再編ではなく、ある程度の規模感を持って再編した方が良い。</li></ul>

**【中学校のあり方に関する事項】**

○ 部活の選択肢が少なすぎ規模も小さい。よって学校再編すべき。【多数意見】

○ 理由は小学校と同じ。より多くの友人と様々な経験を積ませるためにも学校再編すべき。

【多数意見】

○ 市内に中学校1校となると、子供の逃げ道が無くなるのが懸念されるが、それらをカバーできる環境を整えられれば、保護者も安心するので市内に中学校1校で良いと思う。

(登校時間帯・学校内での場所を確保するなど)

**各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい）**

○ 希望する意見なし。

## 『那古地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「那古地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 11名（小学校保護者3名・未就学児保護者5名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
[市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年7月6日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月31日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月12日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月30日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月14日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年3月20日	保護者説明会（～令和5年4月10日まで意見聴取期間）
令和5年5月22日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月26日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月22日	那古地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年7月10日	那古地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

結 論
小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む ※ 中学校の学校再編は、より早い時期での再編を希望する。
理 由
● より多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 (人間関係の固定化回避) (新たな人間関係を構築する機会を、小さなうちから経験させたい。)
各委員の意見 (クラス替え可能な学校規模を望む意見)
<b>【小学校のあり方に関する事項】</b> ○ 多くの友人と色々な経験をさせてあげたい。【多数意見】 ○ クラス替えなどを通じて、子供自身が新たな人間関係を構築する機会を小さなうちから経験させたい。【多数意見】 ○ 国が示す学年2～3クラスがベターだと思う。あまりに規模が大きすぎると、子供の友人関係が把握できなくなること、学区範囲が広すぎると、活動場所がわからなくなる。【多数意見】  ○ 幼稚園～小学校時代は、自身の人間形成過程において重要な時期だと思う。その時期に、より多くの人間と様々な経験をさせてあげたい。親として、幼稚園から小学校までの8年間、友人関係が全く変わらない環境を避けたい。 ○ 周囲の保護者同士(ママ友)とも、この件について意見交換したが、約9割の保護者は、クラス替え可能な規模を望んでいた。 ○ 小学校6年間、単一学級で過ごした自分の子供を見ていて、クラス替えが無いと分かっているため、人間関係が大変そうだと感じた。 (一度友人との輪に入り損ねると大変) ○ 自分の子供(2人)は、一人はクラス替えが出来ており、もう一人は6年間単一学級だったが、クラス替えが出来ていた学年の子供の方が、学校生活が単純に楽しそうだった。 ○ 教育(授業)を考えても、クラスの人数が多くても少なくても、教える内容(教育課程)は一緒であり、小規模校での「きめ細やかな指導」というメリットより、「多くの友人と様々な人間関係を経験出来る環境」のほうが、子供にとって良いと思う。 ○ 学校規模が大きくても、教員数が増えるため「きめ細やかな指導」をとる学校運営体制づくりは可能である。(委員の元教諭より) ○ 現在子供を幼稚園に通わせているが、子供の数が少なく非常に仲が良く、仲が良すぎて(良い事ですが)衝突した経験が一度もない。小学校～中学校～社会に出て色々なことが起きると思うが、小さなうちからトラブルを含め、より多くのことを経験して、自分でそれらを解決できる「力」・「方法」を子供自身に身につけさせたい。それが、子供のためになると思う。 ○ 友人同士での重大な事案があったとき、クラス替えという逃げ場を用意してあげたい。 ○ 私自身が、小学校単一学級で6年間過ごし卒業した。その経験において、一度出来上がった人間関係(クラス全体)が変わることは無く、今思えばクラス替えがあれば…色々違った変化があったのかなと思う。また、現に男女比も約2倍の偏りが発生していた。

- 学校規模が大きくなれば、1つの学級に関わる先生が多くなり（習熟度別授業・教科担任制など）、子供が様々な大人と接する環境を提供できる。また、担任以外も学級の様子を確認できるため、担任の先生ではない視点で子供の様子を日々確認可能となる。
- 新学年のワクワク（担任発表・クラス発表）が、子供にとって心機一転の良い機会となる。
- 学校の小規模化によって出来ない事案が発生するのは、そもそも良い事ではない。（体育での球技、グループ別学習など）
- 卒業までに同級生の顔・名前が一致できる規模（学年3クラスぐらい）が良い。
- 6年間あるので2クラスではなく、最低3クラスぐらいあった方が、色々な友人も出来るので良いと思う。
- 子供の可能性を広げるためには、クラス数が多ければ多い方が良い。

**【中学校のあり方に関する事項】**

- 理由は小学校と同じ。より多くの友人と様々な経験を積ませること、学習面（先生方の配置）、部活動、いずれの面からも早い段階での学校再編を望む。【多数意見】

**各委員の意見（小学校は現状のままで良い意見）**

- 単学級でも、子供は楽しそうに学校生活を送っておりデメリットを感じない。那古の地域として那古学区だけで学校運営をして欲しい。

## 『北条地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「北条地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 6名（小学校保護者3名・未就学児保護者2名・地区代表1名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- ✓ 現状の学区を分割して、学年当り単一学級となる小規模学校での教育環境を望む（最低限の1学年15人，小学校全体で90人規模）
- ✓ 現状と同様に、将来に渡りクラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月23日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年11月8日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月20日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年2月7日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年3月10日	保護者意見聴取（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年5月30日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年6月2日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月26日	北条地区（連合町内会）にて保護者意見の説明
令和5年6月28日	北条地区（町内会長・区長会長へ通知／保護者委員の決定意見）

(協議結果／保護者委員意見)

結 論
将来に渡りクラス替えができる学校規模を望む
理 由
● 小学校6年間固定化された友人関係ではなく、クラス替えを含め多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。
各委員の意見（将来に渡りクラス替え可能な規模を望む意見）
<p>○ 年々北条小の子供達が減少している状況の中で、あえて今以上に学区を分割し小規模化を目指すメリットが見えない。【多数意見】</p> <p>○ クラス替え可能な規模でのメリット（子供の交友関係の広がりや新たな人間関係を築かせる力を養うことなど）と、小規模校のメリット（きめ細かな指導、リーダーを務める機会が確保できる）を比べても、クラス替え可能な規模のメリットの方が、子供にとってより良い学校環境だと思った。</p> <p>○ 一定の学校規模により、年代・性別などバランスの取れた教員配置が可能となり、多様な指導方法（TT、グループ別、教科担任制）も充実することが出来るため。</p> <p>○ 指導塾などでも個別指導などを売りにしており、小規模校での個別指導のメリットは理解できるが、今の学区を分割して更なる小規模化の学校を目指すというのは現実的ではない。</p> <p>○ 小規模のメリットとされる細かな指導はメリットだと思うし、わからないことがあった時は教えてもらいやすいかと思うが、それよりも同級生の友達が多い方が大切なことだと思う。</p> <p>○ クラス替えによる、新たな人間関係を構築する力の育成というメリットを一番重要視したい。小規模・少人数であると、人間関係が固定化されてしまい、場合によっては一度ついた子供の間の序列がずっと変わらないこともあり得る。</p> <p>（参考：地区代表意見）</p> <p>○ 小学校時代に多くの同級生と交わり視野を広げることは、今後の人生経験においても重要なこと。今後も、クラス替え可能な規模を保つといった保護者の方々の意見に賛成します。</p>
各委員の意見（現状よりも小規模を望む意見）
○ 支持する意見なし

## 『館山地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「館山地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 6名（小学校保護者3名・未就学児保護者2名・地区代表1名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- ✓ 現状の学区を分割して、学年当り単一学級となる小規模学校での教育環境を望む（最低限の1学年15人，小学校全体で90人規模）
- ✓ 現状と同様に、将来に渡りクラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月24日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年11月10日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月22日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年2月9日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年3月10日	保護者意見聴取（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年6月1日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年6月6日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年7月6日	館山地区（区長会）にて保護者意見の説明



(協議結果／保護者委員意見)

結 論
将来に渡りクラス替えができる学校規模を望む
理 由
● 標準規模校・小規模校のメリット・デメリットを比較し考えても、クラス替え可能な規模（標準規模校）の方が良い。 ※ 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。
各委員の意見（将来に渡りクラス替え可能な規模を望む意見）
<p>○ 集団で行う教科（体育・音楽など）を考えても、同学年の人数は多い方が良い。</p> <p>○ 現在の学年2クラス規模よりも3クラス程度あった方が良い。理由は、子供の交友関係を広げることが可能性を伸ばすことに繋がると思う。</p> <p>○ 人数は多ければ多い方が良いと感じる。理由は、交友関係を含め子供自身が選ぶ選択肢が広がった方が、子供の成長のために、良いと思うから。</p> <p>○ 学校は子供達が（勉強だけでなく）、社会性を学ぶ場であると思う。そのために、子供同士が様々な関わり合いが持てる学校環境を提供してあげたい。</p> <p>○ 館山幼稚園の役員ともこの議題について話し合いを行ったが、市の財政面（市民負担）を考えても、小規模な学校を何校も運営するよりも、学校再編を行い一定規模の学校を運営する方が、教育環境の質が高まるとの意見があった。</p> <p>また、いずれ館山中学校で同級生が一緒になることを考えても、小学校の段階から交流を持ち、関わりを深めた方が、子供のためにも良いとの意見があった。</p>
各委員の意見（現状よりも小規模を望む意見）
○ 支持する意見なし

## 『西岬地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「西岬地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 8名（小学校保護者3名・未就学児保護者2名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
[市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月30日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月21日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月2日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月20日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月3日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年3月3日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月24日	保護者説明会（～令和5年4月10日まで意見聴取期間）
令和5年5月12日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月16日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月9日	西岬地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年6月15日	西岬地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

(協議結果／保護者委員意見)

結 論

クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む

(付帯意見)

- ※ 子供達の交友関係を広げるためにも、可能な限り早い時期での学校再編を望む。
- ※ 再編後の学校規模は、1学年5クラス以上となるような規模ではなく、国が示す標準規模程度が最適だと思う。

理 由

- 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。
- 更なる少子化を見据え、決断するならクラス替え出来る規模での再編を行わないと、将来世代が同じ議論をすることとなる。

各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）

- 子供に一定規模での集団生活を経験させることで、多様な意見・経験に触れさせ、より多くの人間関係を築き上げて欲しい。【多数意見】
- 小規模な再編では、近い将来にて子供達にとって同じ課題が発生してしまう。更なる少子化は避けられないため、このような機会にクラス替えが出来る学校規模に再編すべき。【多数意見】
- 私が小学校の時は、1学年30人程度の規模であり、そのぐらいの規模感でも良いと思うが、仮にその規模感での学校再編を行ったとしても、更なる少子化により、再度子供達が少人数での学校生活を送ることとなる。よってクラス替えが可能となる学校再編を望みます。
- クラス替え可能な規模での子供へのメリットが魅力的と感じた。また、現場の先生が説明してくれたように、先生方の指導力向上（教科担任制・教員間での切磋琢磨）も図られ双方にとっても良いと思う。
- 1学年単学級であれば、いずれ市が示す最低ラインの1学年15人程度となる学年も発生し、そうした時の男女比率の偏りが保護者として心配である。
- 1学年の人数が多すぎる学校再編（5学級以上）は、望んでいない。子供への目が行き届かなくなる懸念があること、親が子供の友人（家庭環境を含め）を把握できなくなるのが心配
- 今の小学校規模では、行事や運動会などに競いがいがないと感じる。
- 自分が小学校の時、クラス替えにより新しい友人が出来ることを楽しみにしていた。
- 小学校時代に友人の親の顔を覚えていて、大人になっても親を含めた交流もあり、そのような関係性が築けるような学校規模（学年2～3クラス）が良いと思う。
- 館山中に進学した長女を見て感じたことが一番大きな理由であり、先生方の目が行き届かなくなるのはあるかもしれないが、まだ1年も経ってないのに友人がたくさん出来た。同じクラスでない子供とも新たな友人関係を築いている姿をみると、学校規模は大きければ大きいほど良いと思う。
- P T A 活動の負担軽減にも繋がる。

各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）

- 意見なし。

## 『房南地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「房南地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 10名（小学校保護者3名・未就学児保護者3名・地区代表4名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年6月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
[市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年7月3日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月26日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月7日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年2月3日	「学校のあり方を考える会」第3回会議（保護者委員／意見交換）
令和5年3月28日	「学校のあり方を考える会」第4回会議（保護者委員／意見集約化）
令和5年4月21日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年4月25日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年5月26日	保護者説明会（～令和5年6月9日まで意見聴取期間）
令和5年6月27日	「学校のあり方を考える会」第5回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年7月12日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年8月5日	神戸地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年8月15日	神戸地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
令和5年8月17日	富崎地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年8月21日	富崎地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

(協議結果／保護者委員意見)

結 論
<p>① 小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む</p> <p>※ 小学校は、国が示す標準的な学校規模（1学年2～3学級）を超えるような再編は望まない。</p> <p>② 市全体の学校再編を進めるなか、小学校に関しては、保護者・子供の「選択肢」として市内に小規模校を残す必要がある。</p> <p>※ 小規模校であっても、長期間の学校生活において、人間関係・社会性を育むため、市が示す最低限の学校規模（学年15人以上）を確保すべき。それらの確保が困難な場合（複式学級規模含む）、その地域の保護者・子供がその学校に通学させなくなる可能性がある。</p> <p>※ なお、小規模校として学校が存続した地域の保護者・子供にとって「標準学校規模」への通学支援（スクールバス運行等）は、公平性の観点から他地域同様に実施して欲しい。</p>
理 由
<p>① より多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。</p> <p>（人間関係の固定化回避）</p> <p>（新たな人間関係を構築する機会を、小さなうちから経験させたい）</p> <p>（複式学級での教育環境を回避させたい）</p> <p>② 多様性を尊重する現代社会や、学校環境を変える必要性が発生した場合（人間関係・不登校など）において、保護者・子供に「選択肢」を残す必要がある。</p>
各委員の意見 （①：クラス替え可能な規模での学校再編を望む意見）
<p>【 小学校のあり方に関する事項 】</p> <p>○ 自分の子供を複式学級に通わせることを避けたい。【多数意見】</p> <p>（デメリットが多い：授業環境・多様な経験・教員負担など）</p> <p>○ クラス替えができない場合、人間・交友関係が固定化されてしまう。【多数意見】</p> <p>○ 他の学校（標準規模）と指導方法や多様な経験値などでの差が生じてしまう不安がある。</p> <p>○ 私自身、旧神戸小・房南中を卒業したが、クラス替えを経験出来なかった。高校へ入学して規模感に衝撃を受け、高校に馴染めなくて退学した同級生も複数いた。小さい年代から、多くの同級生に触れあっていた方が良いと思う。</p> <p>○ 子供は、房南こども園～中学校の10年以上同級生が変わらない環境で過ごしてきたが、高校での様子を見ると、新しい人間関係を築くことに苦勞をしている状況が見て取れる。子供が高校生になる前は、房南学園の良さを感じていたが、このような会議に参加して様々な角度から子供にとって最善なのは？と考えると、小さなうちから一定の集団生活の中で友人関係を築く力を身に付けさせることが必要だと思った。</p> <p>○ 中学・高校といずれは、一定の集団規模で学校生活を送ることとなる。その時に（向き不向きがあると思うが）集団生活に馴染むことが出来るのか？小学校6年間をあまりに小さな規模で過ごした後のことを考えると、保護者として率直に不安な気持ちがある。</p> <p>○ 小学校では、人間関係・社会性を学ぶことが一番重要だと考える。人間関係を学ぶためには、最初は同学年（同級生）とのコミュニケーションから始まり、異年齢（前後の年代）へ繋げていくものであり、色々な人間、色々な考え方に触れさせるべきと思う。それらの過程・経験が、子供自身の考え方・視野が広がる一助となるのであって、そのためにはクラス替えが出来る規模の環</p>

境が良いと思った。

- グループ活動や運動遊びをするときも、人数が多い方が充実し幅も広がる。
- 人間関係がこじれた際、逃げ場があるという環境（クラス替え）を用意することが良いと思う。
- 人数が少ないために、子供達がやりたいことを経験させてあげられない（例：ドッチボールなどの集団競技）のは良くないと思う。また、お互いをよく知りすぎていて喧嘩が少ない。自分がちょっと我慢すれば…で終わってしまう。色々な人と接して、時にはぶつかり自分の思い通りにならない場合への対処（折り合いをつける）、それらを学ぶことが大切だと思う。
- 子供にコミュニケーション能力を高めて欲しい。小さいうちから色々な同級生と交友を持てる環境下で、トラブル・喧嘩などを含め様々な経験をさせてあげたい。6年間を少人数で仲良く過ごすことは、その時は良いかもしれないが、中学・高校では必ずそれらのトラブルや問題に当たることもあり、その時は既に思春期に入っているため、より深い悩みに繋がると思う。小学校低学年のうちから、色々な同級生などと交わり、解決方法を学ぶ力・自分の性格に合う友達を自分で探す力・友達の間に入る力、それらを身につけさせたい。
- 規模が小さいと子供の個性が目立ってしまう。良い目立ち方もあれば悪い目立ち方もある。基本的には、個性なので良い・悪いはないと頭では理解しているが、もう少し学校規模が大きければ、「こういう人も考え方もあるのだ」と、子供自身が気づき・知ることができると思う。少数意見かもしれないが、そういう事を思っている保護者がいることを理解して欲しい。
- 特別な支援を要する子供達同士でのコミュニティ形成の必要性を考えるべきと思う。
  - ※ 保育士の経験からも、今では、特別支援学級に行く児童もかなりの確率で発生している。学校規模が少なく母数が限られると、同級生で特別支援学級に在籍する同じ境遇の子がいない場合も発生してしまう。子供の気持ちに沿った細やかな配慮という意味でも、一定の学校規模が必要だと思う。
  - ※ 同学年で1人だけ特別支援学級へ在籍する場合よりも、北条・館山小規模のように、新入生50人のうち5～6人で特別支援学級や教科によりクラス移動するような環境の方が、その子供にとっても良いと思う。（僕一人だけ？といった環境ではなく、あの子もこの子もいるような環境を子供に与えた方が良い。）
  - ※ 保護者にとっても、保護者間（同じ境遇）で相談し合える環境にも繋がる。
- 房南学園の体験入学時に現在の2年生（20人以上）が新入生の世話をしていたが、新入生は同学年が少人数（8人）であり子供が気後れしていたように感じた。一方、20人以上いる学年の子供達は楽しそうだった。今回の協議に参加させて頂いて、最初は複式でも地域に学校を残した方が良いと思っていたが、子供の教育環境として他の保護者の考えを含め色々なことを考えると、学校を再編することに納得している。
- 大規模校ではなく2～3クラス程度（国の標準規模）が、規模的にも良いと思う。

#### 【 中学校のあり方に関する事項 】

- 学年1桁の人数では、あまりにも規模が小さすぎ、速やかに学校再編すべき。【多数意見】
- 中学校は3年間しかない。社会に出る前の最後の（義務）教育であり集団生活・部活動のことを含め、一定規模が必要と考える。
- 中学校は、館山に1つでも良いと感じる。（新規建設中の館山中に）
- 今後の推計値を見ると、中学校を存続させることは子供にとって良い環境（学校運営・部活動）とは思えない。自分の子供がやりたい部活が無い場合、学区外に通うこととなる。

- 現在でも、ぎりぎりの人数で部活動を行っており、1人の生徒の体調不良でチーム全体が大会に出場できない状態である。怪我をした子供が無理をしている状況もあり、かかるプレッシャーも大きくなっている。

※ 房南地区では他の地区より協議日程が遅くなったことから、他地区の状況を踏まえ、市内に小規模校を残すことの必要性について、検討した結果、追加意見として纏めたものです。

#### 各委員の意見（②：市内全体の学校再編を見据えた小規模校の必要性）

- 市全体の学校再編の中で、複式学級ではない単一学級規模の学校を市内に残すことも必要とも思う。（1学年15人以上）【多数意見】
- 小規模校といっても、複式学級規模であれば保護者としてその学校には通わせない【多数意見】
- 多数集団に馴染めない、学校を変えなければならない突発的な事が発生したとき、別の受け皿があることは保護者としてありがたい。【多数意見】
- 特色を極め入学したいと思う児童も増やしていければ良い。
- 小規模校を残す場合の設置場所については、地域性・地域資源などを踏まえて検討して欲しい。
- 小規模校が残る地域の保護者にとって、標準規模校 or 小規模校で、保護者同士の板挟みになってしまうのが心配（標準規模校に通わせたいが、そうすると更に人数が減ってしまう）

#### 各委員の意見（学校再編を望まない意見）

- 子供が少なくても、子供達は少ないながらも工夫して楽しんでいる。
- 保護者と学校の連携も密になるため信頼関係も生まれており、保護者間同士もどこの誰だか認識し合っているため安心感がある。
- 子供を見ても、20人程度のクラスだが喧嘩もなく、親同士の付き合いを含めて仲もよい。
- 中学校を含め先輩後輩の付き合いなど、社会性を学んでいると感じる。
- 房南から転校していった子がいたが、大きな規模の学校が合わずに戻ってくる子もいた。小さな学校を残すことも考えるべきと思う。
- 地域産業の維持としての観点から考えると、学校は地域に残した方が良いと思う。
- 集団で揉まれるメリットもあるが、マンツーマン指導に近いほど、先生の直接的な指導時間が増えるため学力は向上する。（持論ですが）
- 小学校は、自宅から歩いて通える距離が良い。地域の自然・景色に触れ合い、道草しながら登下校すること、それらの原体験が一番大切なことだと思う。小・中学校は小規模で、高校からクラス替え規模となっても1～2カ月すれば環境に慣れると思う。小さな年齢で育まれる感性は、後では身につかないことでありそこを一番重要視したい。
- 房南学園の特色（小中一貫校）をもっと打ち出し、他の地域から子供が通ってきて学校を維持できれば一番良い。
- 房南地区は本当に良いところだと思っている。少子化のなかで子供の教育環境に着目すると学校再編は致し方ないとは理解できるが、教育上の支障が低い一定の規模がある間は、可能な限り小学校を存続して欲しい。

## 『豊房地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「豊房地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 10名（小学校保護者3名・未就学児保護者4名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
     [市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月28日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月19日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年11月30日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月18日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月3日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年2月21日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月8日	保護者説明会（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年5月10日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月16日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月18日	豊房地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年7月10日	豊房地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）



(協議結果／保護者委員意見)

結 論
クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む
理 由
<ul style="list-style-type: none"><li>● 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。</li><li>● 自分達（保護者）も豊房小を卒業してきて、小さな学校規模の良さも理解できるが、昔と比べられないほど子供が少なくなっておりデメリットの方が多いと感じる。</li><li>● 更なる少子化を見据え、決断するならクラス替え出来る規模での再編を行わないと、将来世代が同じ議論をすることとなる。</li></ul>
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 小さい学校同士での小規模な再編では、近い将来にて子供達にとって同じ課題が発生し、保護者も同じ議論をしなければならない。更なる少子化は避けられないため、このような機会を捉えてクラス替えが出来る学校規模に再編すべき。【多数意見】</li><li>○ 地域の大人も減少しており、消防団も統合している状況。大人が減れば子供も減るのは当たり前であり、地域から学校が無くなることは寂しいが、このような会議を次の世代で再度行うことは、保護者にとっても負担が大きい。今回の機会を捉えて将来の子供達のためにも学校再編の決断をすべき。</li><li>○ 現在、複式学級で授業を受けている自分の子供も、人数の多い学校に行きたいとの意見であり、保護者としても中学校を見据え多くの友達と長い付き合いをさせてあげたい。</li><li>○ 勉強・スポーツいずれをとっても、多くの友達と関わって欲しい。</li><li>○ 体育でドッチボールすら出来なくなってしまふ、少人数でのかくれんぼ・・・楽しいと思えない。難しく考えるよりも、単純に同級生でのコミュニケーションが取れる人数の方が良いと思う。</li><li>○ 今の豊房小をみても、人数が少なく保護者世代が普通に出来ていたことも出来なくなっている。子供の可能性を広げるためにも学校再編を行うべき。</li><li>○ 友達付き合いが上手に出来る子供に育てて欲しいため。</li><li>○ 私（保護者）自身が、小学校に通っていた頃（20年前）も、既に子供が少なくなっていた。中学校へ進学して人数が一気に増えて本当に楽しかった。</li><li>○ 複式でも地域に学校があれば、必然的にその学校に子供を通わせる保護者が大部分だと思う。子供達も豊房小があれば、そこに通うことについて疑問を抱かない。でも、小学生に入学する小さな子供には決められないことであり、子供をどう導くのか？それが保護者の役割だと思う。今回のような丁寧な議論を踏まえ「子供たちにどのような環境で学校生活を送らせたいのか？」と言われたら、保護者として子供に多くの友人と触れ合う機会を与えてあげたい。</li><li>○ 自分のこれまでの経験だと、旧第二中学校に進学した当時、学年6クラスあったが、一度も話したことのなかった同級生がいたことや、そもそも全員の名前と顔も覚えていない。中学校ではなく小学校であれば、将来も顔を覚えてられる生涯の仲間としてあげたいので、学年で3クラスぐらいまでの規模が良いと思う。</li></ul>
各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）
<ul style="list-style-type: none"><li>○ 個々の特性に応じた、きめ細やかな教育を受けさせることが出来ると感じるため。</li></ul>

# 【館山市学校再編に関する神余地区報告書】

## はしがき

この報告書は、館山市学校再編調査検討における「各地区学校のあり方を考える会」の趣旨に則り発足した「神余学校再編委員会」の活動として報告するものです。

保護者の考え・意見を第一として取りまとめ、それに対する地区民の考え・意見を集約した報告書です。当委員会は一貫した中立的立場にてワーキングを進め、集約及び結果を導いたものです。保護者及び地区民の考え・意見のまとめに関する内容は、各々の集計結果の分析、保護者会及び区民集会等での生の声をもとに、当委員会としてそれぞれの考え・意見をまとめ表現したものです。

## 目 次

1. 神余学校再編委員会について  
発足～活動の流れ
2. 保護者アンケートの実施  
集計結果～整理と分析及び保護者の決意
3. 区民アンケートの実施  
集計結果～区民の考え・意見
4. 学校再編に関する神余地区の考え・意見  
保護者と地区民の考え・意見～まとめ

2023(令和5)年9月14日  
神余学校再編委員会

# 1. 神余学校再編委員会について

## 委員会名簿

	名前	所属・役職	
1	非公開	委員長(保護者)	三役
2	非公開	副委員長(歴代PTA会長)	
3	非公開	副委員長(PTA顧問)	
4	非公開	庶務(保護者)	
5	非公開	会計(保護者)	
6	非公開	PTA会長	役員
7	非公開	保護者	
8	非公開	保護者	
9	非公開	保護者	
10	非公開	保護者	
11	非公開	保護者	
12	非公開	入学予定保護者	
13	非公開	中学部保護者	
14	非公開	PTA顧問	
15	非公開	歴代PTA会長	
16	非公開	学校評議員	
17	非公開	神余区総合区長	
18	非公開	保護者	
19	非公開	保護者	
20	非公開	保護者	
21	非公開	保護者	
22	非公開	保護者	
23	非公開	保護者	
24	非公開	中学部保護者	
25	非公開	PTA顧問	
26	非公開	歴代PTA会長	
27	非公開	歴代PTA会長	
28	非公開	歴代PTA会長	
29	非公開	歴代PTA会長	
30	非公開	歴代PTA役員	
31	非公開	歴代PTA役員	
32	非公開	歴代PTA役員	
33	非公開	学校評議員	
34	非公開	元学校評議員	
35	非公開	区長(大倉地区)	
36	非公開	区長(久所地区)	
37	非公開	区長(加藤地区)	
38	非公開	区長(平田地区)	
39	非公開	区長(山下地区)	

教育委員会へ提出した  
委員17名

# 1. 神余学校再編委員会について

## 発足～活動の流れ

年	日	実施内容・協議内容	参加者	場所	時間	人数	
R4年	6月24日	教育委員会より保護者へ説明会	神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:20～	20	
R4年	7月1日	教育委員会より区民へ説明会	神余区民	神余小学校 ランチルーム	19:30～	41	
R4年	7月5日	神余学校再編委員会発足に向けた 準備・諸活動	神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6	
R4年	7月21日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6	
R4年	8月18日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6	
R4年	8月28日		神余小学校保護者	神余小学校 ランチルーム	9:00～	15	
R4年	9月1日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6	
R4年	9月12日		神余小学校PTA 執行部・歴代PTA会長	神余青年館	19:30～	13	
R4年	10月4日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6	
R4年	10月14日		神余学校再編委員会発足 役員選出	神余学校再編委員会	神余青年館	19:30～	18
R4年	10月20日		区長会へ 神余学校再編委員会発足の報告	神余区長会 神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:00～	13
R4年	10月27日 ～28日	区民へ 神余学校再編委員会発足の報告	再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8	
R4年	11月26日	神余学校再編委員会進行計画作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5	
R4年	12月15日	神余学校再編だより第1号作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	1月12日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	28	
R5年	1月20日		神余区長会・神余学校 再編委員会三役	神余青年館	19:00～	12	
R5年	1月21日		神余学校再編委員会 役員会議	神余青年館	19:30～	12	
R5年	1月27日 ～28日		全世帯へ 神余学校再編だより第1号発行	再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8

R5年	2月3日	保護者アンケート内容検討	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	2月14日	教育委員会と意見交換	神余学校再編委員会 三役?・教育委員会	神余青年館	19:30～	9	
R5年	2月19日	保護者アンケート内容決定	神余学校再編委員会 役員	神余青年館	19:30～	13	
R5年	2月24日	保護者アンケート実施	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	神余青年館	19:30～	15	
R5年	3月7日	保護者アンケート集計	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	3月14日	保護者アンケート結果の整理と分析	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	3月23日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	4月5日		神余学校再編委員会 役員	神余青年館	19:30～	14	
R5年	4月20日		神余区長会・神余学校 再編委員会三役	神余青年館	19:00～	11	
R5年	4月26日		神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:30～	14	
R5年	5月15日		保護者アンケート結果の整理と分析 及び区民アンケートの内容検討	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	6月1日	保護者アンケート結果の整理と分析 最終決定	神余学校再編委員会 教育委員会	神余青年館	19:30～	26	
R5年	6月8日	教育委員会(教育長出席)との意見交換	神余小学校保護者 教育委員会	神余小学校 図書室	19:00～	18	
R5年	6月21日	区民アンケート作成 神余学校再編だより第2号作成	神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:00～	15	
R5年	6月25日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6	
R5年	7月4日		神余学校再編委員会	神余青年館	19:30～	27	
R5年	7月10日		神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:30～	14	
R5年	7月23日		神余区長会・神余学校 再編委員会三役	日吉神社 社務所	19:30～	14	
R5年	7月24日		神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	神余青年館	19:30～	10	
R5年	7月27日 ～28日		区民アンケート実施／全世帯へ 神余学校再編だより第2号発行	再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8
R5年	8月2日		区民アンケート集計 神余学校再編だより第3号作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6

R5年	8月11日	区民アンケート集計 神余学校再編だより第3号作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	8月12日	全世帯へ 神余学校再編だより第3号発行	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区回覧	—	8
R5年	8月20日	区長会へ 区民アンケート結果報告	神余区長会・神余学校 再編委員会三役	神余青年館	19:00～	12
R5年	8月23日	区民集会～区民アンケート 結果報告と意見交換会	神余区民	神余小学校 ランチルーム	19:30～	46
R5年	8月27日 ～28日	区民へ 区民アンケート結果報告	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区集会所	18:30～	8
R5年	9月1日	館山市学校再編に関する 神余地区報告書作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R5年	9月4日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R5年	9月12日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R5年	9月14日		神余学校再編委員会 神余区長会	神余青年館	19:30～	21
R5年	9月19日	教育委員会へ館山市学校再編に関する 神余地区報告書を提出予定	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:00～	—
R5年	9月27日 ～28日	区民へ館山市学校再編に関する 神余地区報告書の提示予定	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区集会所	18:30～	—

## ＜館山市学校再編に関わる保護者アンケート＞

≪ 回答結果記載版 ≫ アンケート回収締切日 3月3日  
 アンケート集計実施日 3月7日

2023年2月24日 神余学校再編委員会  
 神余小学校 PTA 会長

この度の学校再編の課題については、これまで PTA 活動の中で、幾度か語り合い情報共有を重ねてきたところだと思います。当学校再編委員会では、まず現在また入学予定の保護者の方々の、神余小学校の教育への思い・考え、加えて学校を通じた地域への思い・考えを第一にすえ、これらをもとに地域の方々からのご意見、お考えを伺いたいと考えております。

そこで、改めて下記のアンケートを実施させて頂き、保護者の皆様一人ひとりの思い・考えを確認させて頂きながら、意見を集約したいと存じます。

150年の歴史ある神余小学校は、子どもたちだけのものではなく、これまで地域住民の文化の拠点として、地域の交流の場として、物心両面にて欠かすことのできない存在になっています。保護者としての思い・考えを核としながら、地域に生きる若い世代の一人として、今後の地域の活性化等を視野にお考え頂けることを願います。よろしくお願いいたします。

1. 神余小学校で行われている教育(複式学級を含む)について、現在行われている過小規模校の特性を生かした教育についてどのように思いますか。

※下記項目の内どれか一つに○をつけてお答えください。

<回答数>

8 ① 大変良い ※「複式学級」とは … 2つ以上の学年が1クラス

9 ② おおむね良い になった学級のこと。

0 ③ あまり良くない ※「過小規模校」とは… 複式学級が1クラス以上ある

0 ④ 良くない 学校のこと。

2. 過小規模校の神余小学校だからこそ十分に行われている、と思うものに○をつけて下さい。

※下記項目に○をつけてお答えください(複数回答可)

<回答数>

15 ① 神余小では、児童一人ひとりの努力を認め、良さを伸ばそうとしてくれる環境がある。

13 ② 神余小では、先生が児童の話をよく聞き、一人ひとりを大切にしてくれる環境がある。

13 ③ 神余小では、先生が児童に分かりやすいように授業の工夫をしてくれる環境がある。

13 ④ 神余小では、先生が行事内容の工夫や改善をしてくれる環境がある。

14 ⑤ 神余小では、地域の特色を生かした教育活動が行われ、児童が地域に愛着を持つように育ててくれる環境がある。

11 ⑥ 神余小では、児童が良好な人間関係の中で、学校生活を楽しめる環境がある。

1 ⑦ その他

(少人数のクラスでは、大人数のクラスで先生が受けるプレッシャーやストレスが少ないため、神余小学校の先生は、児童を創造的で思いやりを持つ子に育てることができると思います。小規模校では、児童は同級生だけでなく他の学年やいろいろな年齢の大人と関わる機会があります。それに対して大きめの学校では、児童は日常で、自分のクラスや仲間内だけの限られた人とのつながりしかできない傾向があるように思います。)

3. 神余小学校の今後のあり方として、どのような方向を希望しますか。

※下記項目の内、どれか一つに○をつけてお答えください。

<回答数> ※ 2つに○を付けた方が3名います

- 9 ① 児童数を一人でも増やすために、Uターン者や移住者増加の取り組みをして、可能な限り現状の良さを維持するのがよい。
- 10 ② 神余小学校の特性や地域とのつながりなど、他地域にはない過小規模校の魅力を活かした、新たな学校づくりを目指す。市・教育委員会等には、他地域で行われている特認校制度・山村留学・デュアルスクールなど様々な制度についての調査や研究を依頼し、これからの子どもたちに必要な学校づくりをしていく。
- 1 ③ その他  
(私は、将来の子どもたちのために、この小さいながらも優れた学校を残す努力をすべきだと思います。現状維持だけでは足りなく、新しい施策を考えた方が良いでしょうに思います。そもそも、市の行政施策として単に合理化のために学校を統廃合するのは良くないと思います。)

4. 神余小学校と神余地域について伺います。

※下記項目の内、最も強く思うもの一つに○をつけてお答えください。

<回答数>

- 10 ① 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、更に過疎化が進むと心配。
- 1 ② 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、地域活動が廃れると心配。
- 5 ③ 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、地域の結びつきが弱くなると心配。
- 0 ④ 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなっても、地域は特に変わらないと思う。
- 1 ⑤ その他 ( よくわからない ) ※ 「③→②→①となっていくと思う」という記載もあり

5. 神余小学校と神余地域の今後のあり方について伺います。

※下記項目の内どれか一つに○をつけてお答えください。

<回答数>

- 13 ① 神余小学校を、更に地域住民の協力・参加をお願いして、機能特化した学校にしたい。
- 2 ② 神余小学校が存続する間は、地域との関係は現状のままで良い。
- 1 ③ 神余小学校の存在は、地域から薄れてきてもしかたがないと思う。
- 1 ④ その他 ( 小学校の存在は必要だが、地域との関係は深くなくて良い )

◎ あなたの性別に○をつけてください ( 男性 ・ 女性 ) ※ 計17人全員提出済み

※ お忙しいところ恐縮ですが、3月3日までに記入し神余小学校へ提出をお願いします。

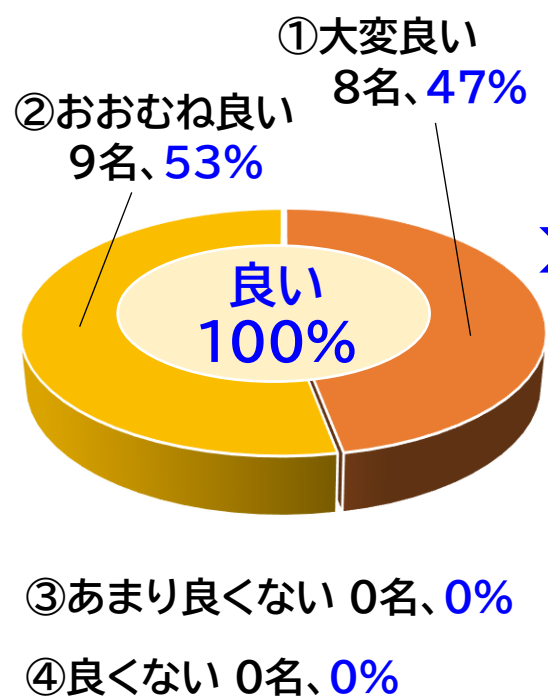
ご協力をありがとうございました。



# 『館山市学校再編に関わる保護者アンケート』結果の整理・分析

## 質問 1

神余小学校の教育(複式学級を含む)についてどう思うか



「良い」が100%!

今の神余小学校の教育に対する満足度

## 質問 2

神余小学校で十分に行われていること

- 〔順位別〕
- 1位 良さを伸ばす 15名 88%
  - 2位 地域の特色を活かす 14名 82%
  - 3位 一人一人を大切に 13名 76%
  - 3位 分かり易い工夫 13名 76%
  - 3位 行事の工夫や改善 13名 76%
  - 6位 良い人間関係がある 11名 65%
  - 7位 その他 1名 6%  
(創造的で思いやりを持つ子に育てることができる。異年齢の人と関わる機会が多い)

全項目満足度65%以上!

今の神余小学校の教育に対する満足度

## 質問 3

神余小学校の今後のあり方をどうしたいか

- ① 9名 45%  
「現状の良さを維持するのがいい」  
・Uターン者や移住者増加の取り組み
- ② 10名 50%  
「神余小での新たな取り組み」  
・市や教育委員会と一緒にこれからの子どもたちに必要な学校づくりを
- ③ その他 1名 5%  
(現状維持だけでは足りなく、新しい施策を考えた方がよい)

現状の良さを維持する努力 + 神余小での新たな取り組み

希望する神余小学校

## 質問 4

神余小学校がなくなると地域がどうなるか

- 〔順位別〕
- 1位 過疎が心配 10名 59%
  - 2位 地域の結びつきが弱くなると心配 5名 29%
  - 3位 地域活動が廃れると心配 1名 6%
  - 4位 その他 1名 6% (よくわからない)
  - 5位 地域は変わらない

地域を心配する内容 94%!

地域への思い

## 質問 5

神余小学校と神余地域の今後のあり方について

- ① 地域の協力を得て機能特化した学校に 13名 76%
- ② 地域とは現状のままで良い 2名 12%
- ③ 地域との関係が薄れてもしかたがない 1名 6%
- ④ その他 1名 6%  
(小学校の存在は必要だが、地域との関係は深くなくて良い)

学校と地域との関係は現状維持のままかそれ以上を求める人が88%!

地域と学校とのつながり

『学校再編に関する保護者の考え・意見を次のように提示いたします。』 保護者一同

～ 未来を担う子どもたちに良好な教育環境を提供するために～

1. 神余小学校(過小規模校・複式学級)の教育は、一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。
2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。
3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。

## 2. 保護者アンケートの実施

# 地域の皆様へ

### ＜保護者の決意＞

私たちが保護者は、子どもたちのために、一致団結して、地域の皆様のご協力を頂きながら、『歴史ある小さな神余小学校』の良さを守り、さらに活かして行こうと考えています。

私たちが保護者のこれからの神余小学校への考えについて、是非とも皆様のお考えお気持ちを聞かせください。

令和5年6月21日

神余小学校保護者一同

## ＜区民アンケート 集計結果＞

神余学校再編委員会・神余区区長会

この度の学校再編について、小学校保護者(入学予定含む)の考え・意見がまとまりました。参照～別紙『保護者の決意』『館山市学校再編に関わる保護者アンケート結果の整理・分析』

その上で、区民の皆様一人ひとりのお考え・ご意見を伺いたいと存じます。よろしく願いいたします。

保護者の考え・意見として提示された3つについて伺います。

**アンケート配布数 325 記載回答人数 273人 回答率 84.0%**

### 【保護者の考え・意見 その1】

1. 神余小学校（過小規模校・複式学級）の教育は、一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。

保護者のこの考え・意見について （いずれかを○で囲ってください）

**大いに賛同する【191人】 / 概ね賛同する【81人】 / 賛同しない【1人】**  
**無回答（無回収 49人・回収無回答 3人） <52人>**

### 【保護者の考え・意見 その2】

2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。

保護者のこの考え・意見について （いずれかを○で囲ってください）

**大いに賛同する【188人】 / 概ね賛同する【81人】 / 賛同しない【2人】**  
**無回答（無回収 49人・回収無回答 5人） <54人>**

### 【保護者の考え・意見 その3】

3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。

保護者のこの考え・意見について （いずれかを○で囲ってください）

**大いに賛同する【187人】 / 概ね賛同する【85人】 / 賛同しない【1人】**  
**無回答（無回収 49人・回収無回答 3人） <52人>**

性別・ご自分の所属地区に○をつけてください。男(128人)・女(130人)・無記載(15人)

上【48】大倉【19】山下【45】畑ヶ中【40】平均年齢 62.5歳(記載 233人)  
加藤【48】平田【45】久所【29】上の台【51】記載回答人数 273人/325人

## 4. 学校再編に関する神余地区の考え・意見～まとめ

### (1) 保護者のまとめ

#### ①保護者の考え・意見と更なる姿勢

学校再編の課題に関する保護者会を9回開催し、偏った視点に陥ることのないように議論を重ねました。現神余小学校の教育環境の良し悪しを、わが子の姿・成長を改めて検証しながら、また小学校卒業生の声に耳を傾け、加えて様々な教育のあり方論を確認しながら、より客観的で妥当性のある判断・考察に努めました。わが子のより良い教育環境とは？あるべきより良い教育環境とは？を保護者相互にて問い掛け合いました。これらをもとに改めて個々へのアンケートを実施し、当報告書2のアンケート結果～整理と分析及び保護者の決意としてまとめました。

臨む考えは安易な理想郷ではなく、現に在る小さな学校教育での良さをより伸ばし活かす、新たな学校づくりへの提案・提示と考えます。現実に過小規模校での適正少人数の維持確保に向け、地域の方々のご理解ご協力を頂きながら取り組んでいる「子育て世代～空き家情報」、同じく「魅力ある小規模校教育」の広報活動への反応・反響も大きく、成果として令和5年度現在までに3世帯児童数5名の増加が見られています。微動ではありますが新たな神余小学校づくりへの希望と考えます。同時にこれらの動きは、保護者アンケートの質問事項3にて最多の賛同を得た②「～市・教育委員会等に特認校制度・山村留学～様々な制度についての調査や研究を依頼し、これからの子どもたちに必要な学校づくりをしていく」に繋がるものと考えます。

このように新たな取り組みにも積極的に挑み、市内地域にはない過小規模校の魅力を活かした新たな学校づくりに向け、保護者一同団結し自ら活動することを改めて決意しました。これまでの地域のご理解ご支援に甘えることなく、地域に生きる新たな歴史ある小学校づくりを目指すものです。

### (2) 地区民のまとめ

#### ①保護者の考え・意見を第一とする区民の姿勢

館山市学校再編及び小学校教育のあり方等への区民の意向は、一貫して現神余小学校保護者及び入学予定者の保護者の考え・意見を第一とする姿勢であります。

歴史ある神余小学校への区民の思い、考えは、年代に応じた母校愛、郷土愛として一人ひとり綴られます。変わりゆく時代と共に、人の価値観も

多様となり、教育のあり方についても幾度となく問い直されてきています。これらを踏まえ、学校再編の課題である子どもたちの教育環境等のあり方については、当然ながら現保護者等のわが子への思い・教育への考え方を第一とし、区民はその考え・意見に耳を傾け意思表示をする動きとなりました。その一環にて、保護者の考え・意見に対する「区民アンケート」及び「区民集会」を実施し、当報告書3・4の結果となりました。

## ②区民アンケート結果～整理と分析及び区民集会

神余地区在住・18歳以上の成人(小学校保護者含む)を対象に実施しました。

アンケート配布数 325 記載回答人数 273人 回答率 84.0%

### 【保護者の考え・意見 その1】

1. 神余小学校(過小規模校・複式学級)の教育は、一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。  
大いに賛同する【191人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【1人】  
無回答(無回収49・回収無回答3)<52人>

### 【保護者の考え・意見 その2】

2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。  
大いに賛同する【188人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【2人】  
無回答(無回収49・回収無回答5)<54人>

### 【保護者の考え・意見 その3】

3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。  
大いに賛同する【187人】／概ね賛同する【85人】／賛同しない【1人】  
無回答(無回収49・回収無回答3)<52人>

現保護者の考え・意見その1～3への回答内容は、大いに賛同する、概ね賛同する、賛同しない、また無回答共に、ほぼ同数の回答数でありました。分析としては、各地区集会時での反応から考察すると、保護者等からの説明にて、その趣旨・考えに概ね理解を示しながらも、詳細内容や見通しに、自信・責任が持ちきれないと判断した方が3割程いたと考えます。半信半疑な受け止めと、謙虚な姿勢による判断が「概ね賛同する」に反映

されたと考えます。また、無回答(未回収含む)が配布数の2割弱を数えた点は、当初の予測を上回り残念な結果でありました。校舎新築時の機運、地域熱から20年ほど経過し、過疎化・高齢化による世帯状況の変化により、当事者意識の弱まりが加速した結果であり、現実の課題として真摯に受け止めています。その中、「大いに賛同する」が記載回答の7割を占めたことは、保護者にとっては、大いに勇気づけられたと言えます。

### 【8月23日 区民集会の状況と分析】

出席者46名(学校再編委員会関係者含む)

#### 1. 区民アンケート結果報告及び質疑応答

学校再編委員会より報告・説明 / 結果報告に関する質疑なし  
<他の意見>

※地域の学校での子どもの姿・話題と地域住民(特に高齢者)の活性化

※神余に転居、わが子の成長、地域の学校教育への熱心さに感銘を受ける

#### 2. 今後の神余学校再編委員会の動きについて

学校再編委員会より、基本的な姿勢と神余地区報告書作成の概要説明

#### 3. 意見交換(質疑含む)

※神余小学校の現況と過小規模校、極小規模校等の内容・表現等の確認

※今後の入学児童の推移の確認

※神余小PTAが取り組んでいる「空家活用プロジェクト」の確認

※神余再編委員会の立場、ワーキングのあり方の確認

※過小規模校のメリット・デメリットの整理と課題の克服について

※館山市全体の学校再編の見通しと、現時点での計画の有無について確認

※別途に、神余小学校への区民の思い・考えを募る機会の必要性について

### 【分析】

出席者の区民アンケート結果(数字)への関心度は自ずと高く、学校再編委員会からの報告・説明を聞く中で、予想と理想と結果状況を、各々にて整理していたと考えます。様々な視点・立ち位置からの意見を交わす中で、現保護者と地区民の立場の違い、逆に必要不可欠な連携等のあり方が、改めて確認されたとと言えます。同時に、議論の真ん中にある「地域の学校ありき」が鮮明となり、神余小学校のあり方は保護者・地区民一対で語られるべきものであると確認されたとと言えます。

### ③保護者の考え・意見に賛同し支援する区民の姿勢と決意

②の区民アンケート結果～整理と分析における、配布数2割弱の無回答を現状と今後への厳しい意見、意思表示として受け止めつつ、また区民集会での状況を踏まえて、以下を区民の考え・意見の総体的なまとめといたします。



### ＜区民アンケートに応える思い・・・＞

学校再編に関して現保護者が様々な議論を重ねた上での「保護者アンケート」の結果～整理と分析及び保護者の決意を、地域・地区民への問いかけ投げ掛けとして理解し、「区民アンケート」にて応えました。地区民として進む少子化・高齢化を肌で感じる日々での現保護者の決意等の受け止めは、改めて当事者意識を呼び起こす少々重いものでした。学校教育のあり方、神余小学校のこれからを改めて、また新たな思いとして考える際には、神余小学校をこれまで支えてきた区民としての自負と新たに抱えるべき責任感がより交錯し、一人ひとりの胸に多くの迷いと葛藤が生じたと考えます。

### ＜回答が示すものは・・・＞

区民一人ひとりのこの区民アンケートの判断には、神余小学校の歴史の重み、校舎新築等の節目、これからの小学校とあるべき地域の姿等の思いが連なり、単一に応えきれない奥深く複雑な思いが秘められています。一途な地元愛からの「地域の学校」「おらが学校」意識では済まされない、世帯構造の変化、少子高齢化等様々な現状・課題を認識しながらの、改めての・新たな判断・意思表示と言えます。

### ＜総体的なまとめ＞

神余小学校現保護者のアンケート結果と決意にある内容を各地区集会、また区民集会にて確認し、区民アンケート配布対象者の8割を超える方々が、「小規模校での魅力ある教育、更なる活用のあり方、必要性・有効性・将来性を踏まえた前向きな姿勢・考え等」に理解を示し、受け入れ、希望を含め賛同したと捉えています。同時にその方向性には地域の力となる区民一人ひとりの参画が不可欠であることも理解し自覚していると考えます。

神余小学校のこれまでの歩みと課題を踏まえつつ、可能な限りの取り組みに挑み、神余小学校の改めての存続と更なる発展を期し願うものです。

以上

## 『館野地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「館野地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 10名（小学校保護者3名・未就学児保護者4名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年5月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
     [市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月26日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月17日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年11月28日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月16日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月1日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年2月8日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月6日	保護者説明会（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年5月8日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月12日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月17日	館野地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年7月10日	館野地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）



結 論

今後の児童数の減少を考慮すると、今以上の学校規模となるような学校再編を行うべきである。

(望ましい学校規模)

- ※ 最低限1学級15人以上を将来的にも維持できる規模とすべき。
- ※ 子供達がより良い学校生活を送るため、クラス替えが出来る学校環境を提供して欲しいが、その一方で教職員・児童・保護者がお互いの顔を認識し、それぞれ必要な関係性が築ける学校規模が望ましいため、学校規模の上限値は、国が示す標準的な学校規模(1学年②～③クラス)として欲しい。

理 由

- 1学年15人を下回る学校規模となると、友人同士で様々な経験をさせることの難しさ、男女比の偏り、学校内活動(実技教科での集団学習・グループ別活動等)における課題点などについて、保護者として懸念がある。
- 1学年4クラス以上のような学校規模(大規模校)となると、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育への不安があること、子供同士も6年間でお互いの友人を認識できない可能性も発生する。また、保護者と教職員、保護者間同士も距離感が発生し、必要な関係性が築けない懸念がある。
- 今後、少子化が進めば再度同じ議論をしなければならない。このようにきちんと議論する機会を契機と捉え、教職員の労働環境を含め子供達にとってより良い教育環境を提供するため、学校再編について前向きに取り組むべきである。

各委員の意見(クラス替え可能な学校規模を望む意見)

- 中学校では、大人数の中で学校生活を送ることとなるため、小学校のうちから一定規模での集団生活を経験させたい。【多数意見】
- 子供同士の間関係やトラブル等に配慮したクラス編制が可能となる。【多数意見】
- 教科担任制のメリットを享受できる。【多数意見】
- クラス替えを子供に経験させたい。(新しい友達との交友関係を広げて欲しい)【多数意見】
- 子供が社会に出た時には、必然的に多くの人達と接していかなければならない。そのような経験を小さいうちから体験させてあげたい。
- クラス替え可能な規模 or 単一学級、それぞれのメリット・デメリットがあり、保護者としては、どちらになっても許容可能な範囲と言えるが、学校運営全体を見た時には、クラス替えが可能な学校規模の方が良いと感じる。理由として、クラス替え可能な学校規模であれば、先生方の母数も増え、先生間同士での意見交換が可能となること、教科担任制の導入により子供達が様々な先生の授業を受けることが出来ること、授業の質を高め、先生方の働き方改革にも繋がる取組を行うことも出来る。それら日々多忙な現場の先生方の働き方を変え、幸せを感じて働いてもらえることが、そこで教わる子供の幸せにつながると思うため、先生方が働きやすい環境の学校に子供を通わせたい。
- 先生方の負担を軽減させ、より良い教育環境を子供達に提供させたい。
- 保護者(P T A)の負担軽減が図れる。

- 現状においても、一部の学年にて 15 人を下回る学級規模となっており、子供の様子からも友人関係の少なさを感じている。
- 地域から学校が無くなるのは悲しいという“想い”は、当然理解できますが、世の中の少子化の流れのなかで、全国で学校の統廃合が行われているのも事実であり、想いとは別に現実的な課題（子供達の教育環境、学校維持運営のコスト等）を踏まえて判断すべきと思う。

**各委員の意見（現状の学校規模（クラス 20 人規模）を望む意見）**

- 今の学校規模（学年あたり約 15～30 人）を含めた学校運営に、満足度が高い。その理由として、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育を行ってもらえている感じがあるため。
- 少人数の小さな世界でも、子供達が楽しそうに学校生活を送っている様子が見られ、現在の学校環境に対しデメリットが感じられない。
- 現在中学校に通学している子供の意見として、館野小学校の仲間・絆があることが心強いとのことであった。
- 人前で話すことが苦手な子供は、少人数で発表機会が多い方が良いと思う。
- 先生と保護者の距離感が近く、気軽に相談しやすい環境である。

## 『九重地区学校のあり方を考える会』における「保護者委員」の意見結果 及び地区保護者等との意見交換状況について

（「九重地区学校のあり方を考える会」について）

- 委員 9名（小学校保護者3名・未就学児保護者3名・地区代表3名）
- 検討過程 令和4年10月～令和5年4月

（協議内容）

- 保護者として考える望ましい学校規模について
- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
  - ✓ 1学年単学級での教育環境を望む。  
[市が示す最低限の学校規模（1学年15人，小学校全体90人）以上]
  - ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

（協議経過）

日 付	内 容
令和4年6月25日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
令和4年10月14日	「学校のあり方を考える会」第1回会議 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年11月25日	「学校のあり方を考える会」第2回会議 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月13日	「学校のあり方を考える会」第3回会議 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年2月1日	保護者説明会（案内通知発送／（現）小学校・未就学児保護者）
令和5年2月15日	保護者説明会（PTA役員会へ周知依頼）
令和5年3月3日	保護者説明会（～令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年4月28日	「学校のあり方を考える会」第4回会議 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月8日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月4日	九重地区（区長会）にて保護者意見の説明
令和5年6月10日	九重地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）

結 論
<b>クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む</b>
※ ただし、子供の友人関係の把握やPTA活動などを通じて学校との一定の関わり合いを持つため、大規模校（1学年4学級以上）ではなく、国が示す標準的な学校規模（1学年2～3学級）での再編を望む。
理 由
<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域に学校を残してもらいたい気持ちがあるが、それ以上に、少人数での学校生活（複式学級での教育、多くの友人同士で様々な経験をさせること・学年での男女比の偏り）に対するデメリットが多く、子供のことを考えると学校再編を行った方が良いと考える。</li><li>● 1学年15人以上の学校規模に再編しても、少子化が進めば再度同じ議論をしなければならない。このように機会を設け議論をしているため、今回を良い機会と捉え、より最善（ベター）な方策を結論とし、子供達の学校環境を再び大きく変えるような事態を避けるべき。 ※ 近い将来で2回の学校再編は避けるべき。</li></ul>
各委員の意見（学校再編によりクラス替えを望む意見）
<ul style="list-style-type: none"><li>○ いずれ中学校で一緒となるのであれば、小学校のうちから交友関係を広げておくべき。 【多数意見】</li><li>○ 子供には子供社会の人間関係を学んで欲しい。世の中には色々な人がいること、子供同士でグループを作ることなどを知って欲しい。 【多数意見】</li><li>○ 小規模校のメリットも理解できるが、子供達の可能性を更に引き出すためには、クラス替えが出来る学校規模の方が良い。【多数意見】</li><li>○ 複式学級ではメリットよりもデメリットの方が多く感じ、教育環境が良いとは思えない。 【多数意見】</li><li>○ 複式学級では、教職員の負担（増）を含め、日々の学習効率が悪くなると思う。【多数意見】</li><li>○ 九重小を卒業し、現在館山中に進学している自分の子供と話をしたが、「小学校時代では少人数が当たり前でありその中で少ないながらも楽しく学校生活を送れたが、中学に進学して多くの友人ができ、受ける刺激も多く、色々な考えを持つ同級生と触れ合っている。今になって思うと、これら多様な友人関係や刺激を小学校の時から経験したかった」との意見であった。この会に入る前は、複式学級になったとしても九重小を残したいと思っていたが、小規模校における課題点を踏まえ子供の意見を聞くと、保護者としてクラス替えが出来る教育環境をこれからの子供達に提供してあげたいと意見が変わった。</li><li>○ 南房総市の保護者（学校再編対象学校）の方とも意見交換したが、子供の交友関係を広げるためにも、一定の学校規模があつて良かったとの意見があつた。</li><li>○ クラスの中での順位関係（運動・学力）が決まっており、刺激や競争心を育むためにも一定の規模が必要だと思う。</li><li>○ あまりに少人数が子供にとって本当に良いことなのか？私自身も子供を九重小に通わせることに迷いがあつたことも事実であり、そのように考える保護者の方々もいると思う。</li></ul>

各委員の意見（複式学級でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）

- こども園と小学校が同一敷地内にあり、それぞれの交流もあるなど今が良い環境だと思う。
- 少人数学校の方が子供の積極性が育つと思う。
- 中学校では大きな集団で生活するため、逆に小学校時代は少人数規模の学校生活を送らせてあげたい。
- 体力面から小学校は徒歩で通学させたい。

## 小規模特認校について（制度概要等）

### 1 法令上の定義（学校選択制）

#### 【 学校教育法施行令 第5条 】

市町村教育委員会は、市町村内に小学校（中学校）が2校以上ある場合、就学予定者が就学すべき小学校（中学校）を指定しなければならない。

（理由）

- 複数ある学校から特定の学校を予め指定し通知することで、保護者の就学義務を円滑に履行させる

#### 【 学校教育法施行規則 第32条 】

市町村の教育委員会は、学校教育法施行令第五条の規定により就学予定者の就学すべき小学校（中学校）を指定する場合には、あらかじめ、その保護者の意見を聴取することができる。この場合においては、意見の聴取の手續に関し必要な事項を定め、公表するものとする。

（解釈）

- 就学校の指定前に期日を設け、保護者が希望する学校を申し出ることが出来る制度 → 「学校選択制」

### 2 学校選択制の種類

分類	概要
自由選択制	当該市町村内の全ての学校について選択を認めるもの
ブロック選択制	当該市町村内をブロックに分け、そのブロック内の学校での選択を認めるもの
隣接区域選択制	従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の学校について選択を認めるもの
特認校制	従来の通学区域は残したままで、特定の学校について通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも選択を認めるもの
特定地域選択制	従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者について、学校選択を認めるもの

### 3 学校選択制の導入自治体（全国調査）

分類	自治体数	導入自治体数	
		（小学校）	（中学校）
自由選択制	1,751	33 (1.9%)	63 (3.6%)
ブロック選択制	1,751	6 (0.3%)	3 (0.2%)
隣接区域選択制	1,751	52 (3.0%)	35 (2.0%)
特認校制	1,751	196 (11.2%)	72 (4.1%)
特定地域選択制	1,751	91 (5.2%)	64 (3.7%)

□ 文部科学省調査（全国教育委員会対象）／就学校の指定・区域外就学の活用状況調査

□ 調査期間：令和4年11月～令和5年1月

□ 調査時点：令和4年5月1日

① 「特認校」導入理由（複数回答あり）

分類	設問	回答数
小学校 (196 団体)	小規模校の課題解消のため	185 (94%)
	大規模校の課題解消のため	7 (4%)
	その他 (自由記述)	20 (10%)
中学校 (72 団体)	小規模校の課題解消のため	62 (86%)
	大規模校の課題解消のため	2 (3%)
	その他 (自由記述)	14 (19%)

通学区域を広げることで、小規模校の課題解消を目指す自治体が圧倒的多数である

② 小規模校解消を目的に「特認校」を導入して良かった点（複数回答あり／回答上位順）

分類	設問	回答数
小学校 (185 団体)	児童生徒が自分の個性に合った学校で学ぶことができるようになった。	131 (71%)
	地域の特色を生かした学校づくりが推進できる。	126 (68%)
	きめ細やかな指導を行うことができる。	96 (52%)
	児童生徒数の確保ができ、児童生徒が多様な意見に触れることが出来るなど教育活動が活性化した。	89 (48%)
	その他 (自由記述)	6 (3%)
中学校 (62 団体)	児童生徒が自分の個性に合った学校で学ぶことができるようになった。	45 (73%)
	地域の特色を生かした学校づくりが推進できる。	42 (68%)
	児童生徒数の確保ができ、児童生徒が多様な意見に触れることが出来るなど教育活動が活性化した。	33 (53%)
	きめ細やかな指導を行うことができる。	29 (47%)
	その他 (自由記述)	2 (3%)

③ 小規模校解消を目的に「小規模特認校」を導入による課題点（複数回答あり／回答上位順）

分類	設問	回答数
小学校 (185 団体)	通学距離が長くなり安全確保が難しくなること、児童生徒の通学負担が発生	62 (34%)
	事務手続きが煩雑化した	45 (24%)
	希望者の意向にもよるため、小規模校の課題解消にはつながらなかった	42 (23%)
	課題は特にない	39 (21%)
	その他 (自由記述)	32 (17%)
	通学区域外から通学している児童生徒は、自分の住んでいる地域との関係が希薄になった	29 (16%)
中学校 (62 団体)	通学距離が長くなり安全確保が難しくなること、児童生徒の通学負担が発生	26 (42%)
	事務手続きが煩雑化した	17 (27%)
	課題は特にない	13 (21%)
	通学区域外から通学している児童生徒は、自分の住んでいる地域との関係が希薄になった	12 (19%)
	希望者の意向にもよるため、小規模校の課題解消にはつながらなかった	8 (13%)
	その他 (自由記述)	8 (13%)

#### 4 県内自治体の状況

##### ① 小規模校（全学年単一学級）を設置していない自治体

※ 小規模校の「選択肢が無い」自治体（県内全市37団体中）

小学校	5市（習志野・流山・八千代・鎌ヶ谷・浦安）	13.5%
中学校	25市（旭・勝浦・君津・富津・八街・匝瑳・山武・いすみなど）	67.6%

##### ② 小規模特認校 設置団体

	あり	なし	団体名
小学校	8市（28.6%）	20市（71.4%）	木更津、野田、成田、佐倉、市原、印西、白井、富里
中学校	2市（7.1%）	26市（92.9%）	木更津、印西

※ 公共交通網が充実している9自治体を除く（千葉・船橋・市川・習志野・浦安・松戸・柏・流山・八千代）

##### ③ 小規模特認校への学区外通学者の人数・割合（令和4年度）

（小学校）

団体名	全児童数 （公立）	小規模特認校						全児童に 対する学区外割合
		学校名	学級数	児童数	うち学区外		通学 支援	
					人数	割合		
木更津市	7,144	A	⑥	51	23	45.1%	有	0.77%
		B	⑥	88	15	17.0%	有	
		C	⑥	90	17	18.9%	有	
		D	⑦	180	0	0.0%	なし	
野田市	7,066	E	複式	64	30	46.9%	なし	0.42%
成田市	6,255	F	複式	41	13	31.7%	なし	0.21%
佐倉市	7,869	G	⑥	55	18	32.7%	なし	0.30%
		H	複式	40	6	15.0%	なし	
市原市	12,453	I	⑥	73	33	45.2%	なし	0.55%
		J	⑥	80	35	43.8%	なし	
印西市	7,299	K	複式	47	15	31.9%	なし	0.21%
白井市	3,594	L	⑥	91	20	22.0%	なし	0.56%
富里市	2,128	M	⑥	72	21	29.2%	なし	0.99%
合計	53,808	13校		972	246	25.3%		<b>0.46%</b>

（中学校）

団体名	全生徒数 （公立）	小規模特認校						全生徒に 対する学区外割合
		学校名	学級数	生徒数	うち学区外		通学 支援	
					人数	割合		
木更津市	3,463	A	③	44	3	6.8%	なし	0.14%
		B	③	97	2	2.1%	なし	
印西市	3,035	C	複式	22	4	18.2%	なし	0.13%
合計	6,498	3校		163	9	5.5%		<b>0.14%</b>



④ 通学支援実施による学区外通学者の推移（木更津市／令和4年度から通学支援開始）

学校名	種 別	R 3	R 4	R 5	増減 (R3-R5)
A	全校児童数	54	51	67	+ 13
	うち学区外	20	23	36	+ 16
	(割合)	37.0%	45.1%	53.7%	+ 16.7%
B	全校児童数	86	90	95	+ 9
	うち学区外	11	17	28	+ 17
	(割合)	12.8%	18.9%	29.5%	+ 16.7%
C	全校児童数	83	88	92	+ 9
	うち学区外	8	15	25	+ 17
	(割合)	9.6%	17.0%	27.2%	+ 17.6%
合計	全校児童数	223	229	254	+ 31
	うち学区外	39	55	89	+ 50
	(割合)	17.5%	24.0%	35.0%	+ 17.5%

（木更津市）学区外通学者：89人／全校児童数：7,144人＝1.25%

（館山市：需要予測値）全校児童数：1,787人×1.25%＝22人（学年当り／3～4人）

## 5 導入自治体への視察結果（市原市・木更津市）

### ① 市原市（1小学校／令和5年7月4日）

- 小規模特認校の設置目的は、複式学級の解消であるため、市内中部に位置している学校を選定
  - ・ 市域面積が大きく、北部・南部など偏った場所に特認校を設置した場合、保護者の送迎時間がかかり学区外通学者が増加しない可能を考慮
  - ・ 人口集中地区（五井・ちはら台）から自動車で15分程度の地理関係にあることが一定の人数を確保できている要因
  - ・ 市街化調整区域（都市計画法上）にあり宅地分譲・新規建設等が事実上不可能となることから、人口増加が見込めない地域でもある。
- 人口集中地区からの利便性に加え、自然環境が豊かであり地域住民の学校への愛着心（協力）も強いいため、特色を打ち出しやすい条件であった。
- 学校の特色は3つあり、英語教育・造形教育・自然体験活動である。
- 学区外からの通学動機は、自然環境を生かした小規模校での教育環境や特色ある学校教育への賛同に加え、学校施設が木質感に溢れており施設が持つ雰囲気を含め希望する方がいる。



② 木更津市（C小学校／令和5年7月11日）

- 市として学校教育上、最低限必要な学級数の目安を小学校1学年1学級以上、中学校1学年2学級以上とし、この規模を下回る可能性がある学校は、学校統合や小規模特認校制度を活用
- 小規模特認校の維持のため令和4年度から通学支援（スクールバス運行）を実施しているが、一部の小規模特認校では今年度から複式学級が発生
- 学校設置場所は市街化調整区域内にあり、地域内の人口増加が見込めない学区ではあるが、自動車で10分程度の学区外では大幅な宅地造成もなされている状況（袖ヶ浦IC近く）
- 学校の特色は3つあり、自然体験活動・社会人サッカーチームとの連携・音楽（Jazz）活動である。
- 平成31年に新築した新校舎（木造建築物）は、他の小学校とは一線を画すものであり、この校舎を含めた環境が入学の動機に確実に影響している。



館山市 教育部 教育総務課  
(学校再編推進室)

〒294-8601 館山市北条1145-1  
TEL : 0470-22-3694  
mail : kyousoumu@city.tateyama.chiba.jp